

平成 27 年 度

県 政 世 論 調 査

結 果 報 告 書

〈概要版〉

平成 27 年 10 月

福 島 県

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的.....	1
2. 調査実施概要.....	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成.....	2

II 調査結果の解説

1. 復興に関する情報発信について	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興が進んでいると感じる情報.....	6
(3) 復興状況に関する情報の入手先.....	7
(4) 県の広報活動の満足度	8
(5) 県外に発信すべき内容	10
2. 心の健康について.....	11
(1) 心の健康への関心の有無	11
(2) 精神的な疲労の認識	13
(3) 心の負担になっていること	15
(4) 心の健康についての相談先	17
(5) 利用したことのある相談機関	19
3. 青少年の健全育成について.....	21
(1) 『地域の養育力』について	21
(2) 地域で特に力を入れるべきこと.....	22
(3) 非行を防ぐために重要なこと	23
(4) 行政が特に力を入れるべき分野.....	24
(5) 高校生の行動について	25
4. ユニバーサルデザインについて	26
(1) 言葉の認知状況	26
(2) 導入が必要なもの	27
(3) 推進するために重要なもの	28
(4) 参加したい活動	29
5. 農林水産業について.....	30
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと.....	30
(2) 農山漁村の役割として期待すること.....	31

6. 地域社会の安全・安心（治安）について.....	32
(1) 現在の治安状況.....	32
(2) 治安状況が良いと思う理由.....	34
(3) 治安状況が悪いと思う理由.....	36
(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段.....	38
(5) 犯罪に関して知りたい情報.....	40
(6) 警察に強化してほしい活動.....	42
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪.....	44
(8) 身近に感じる不安.....	47
7. 安全で安心な県づくりについて.....	48
(1) 安全・安心の現状.....	48
8. 県総合計画について.....	50
(1) 福島県の現状.....	50

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100%を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

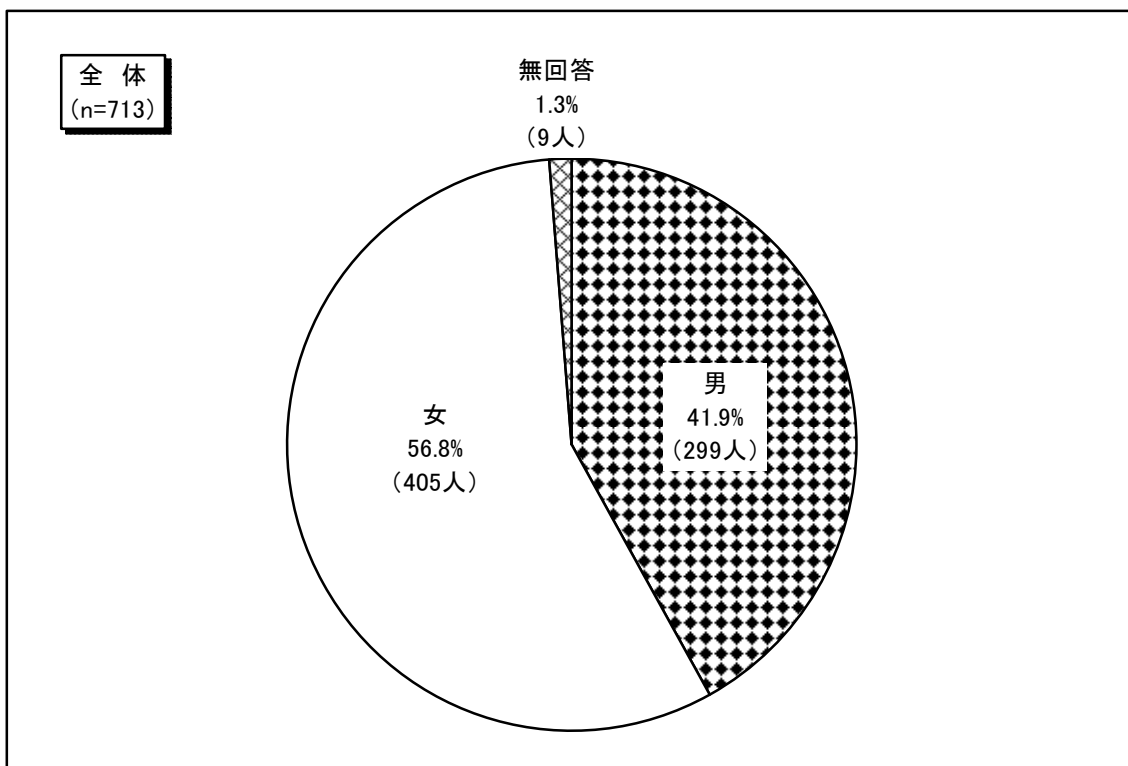
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (6) 調査期間 | 平成27年7月17日～7月31日 |
| (7) 回収結果 | 有効回収数713（有効回収率54.8%） |

3. 調査項目

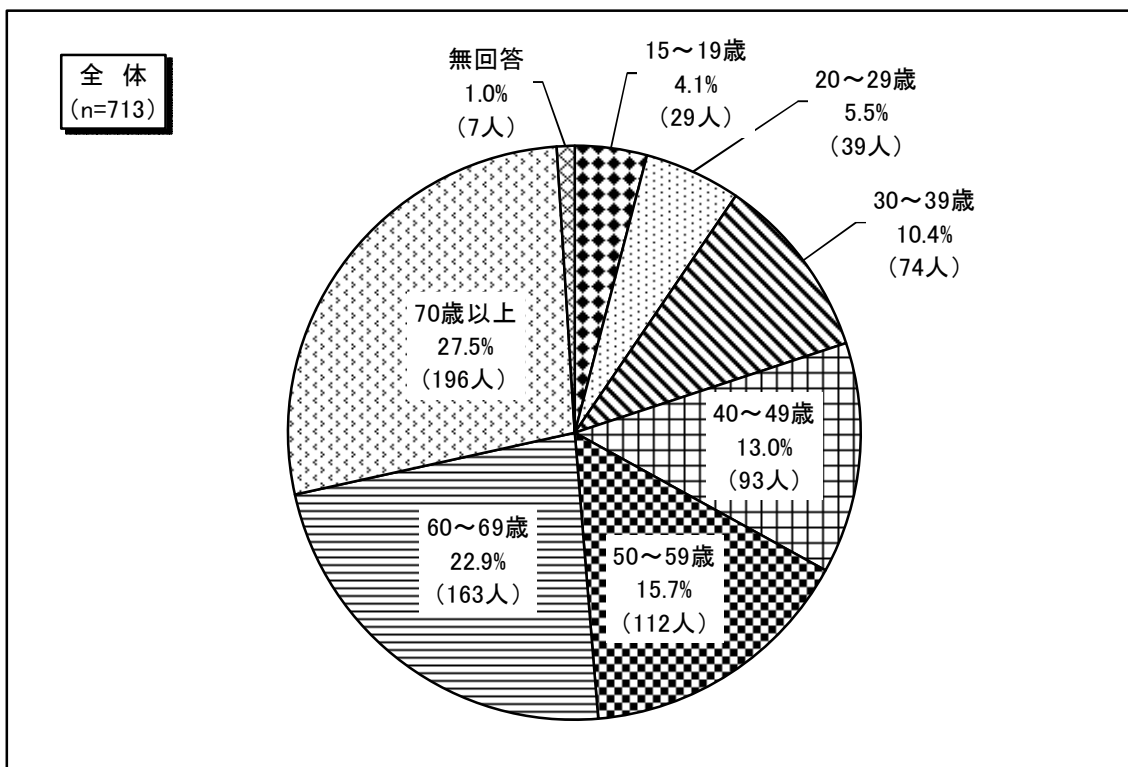
- (1) 『復興に関する情報発信』について
- (2) 『心の健康』について
- (3) 『青少年の健全育成』について
- (4) 『ユニバーサルデザイン』について
- (5) 『農林水産業』について
- (6) 『地域社会の安全・安心（治安）』について
- (7) 『安全で安心な県づくり』について
- (8) 『県総合計画』について

4. 回答者の構成

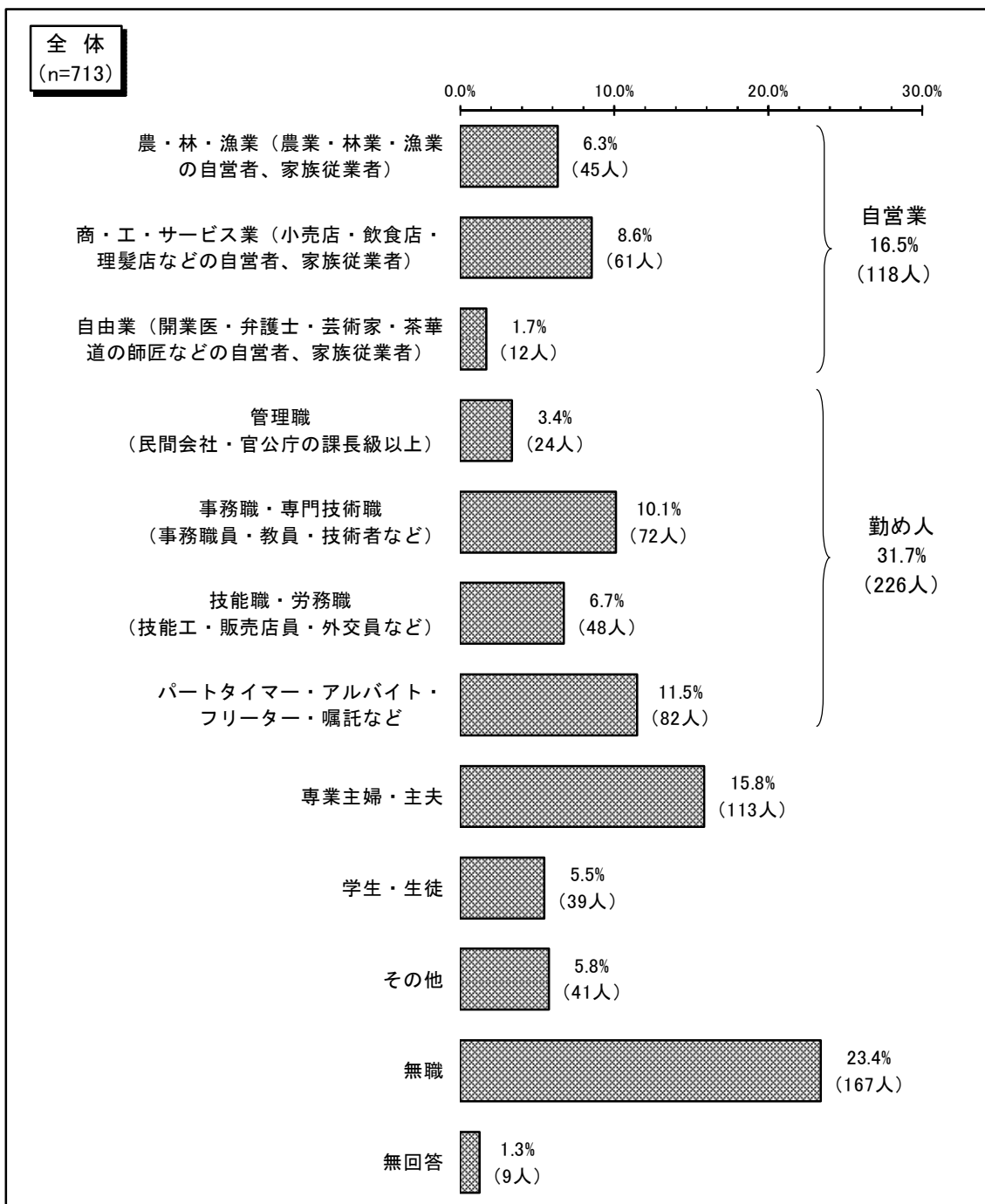
(1) 性別



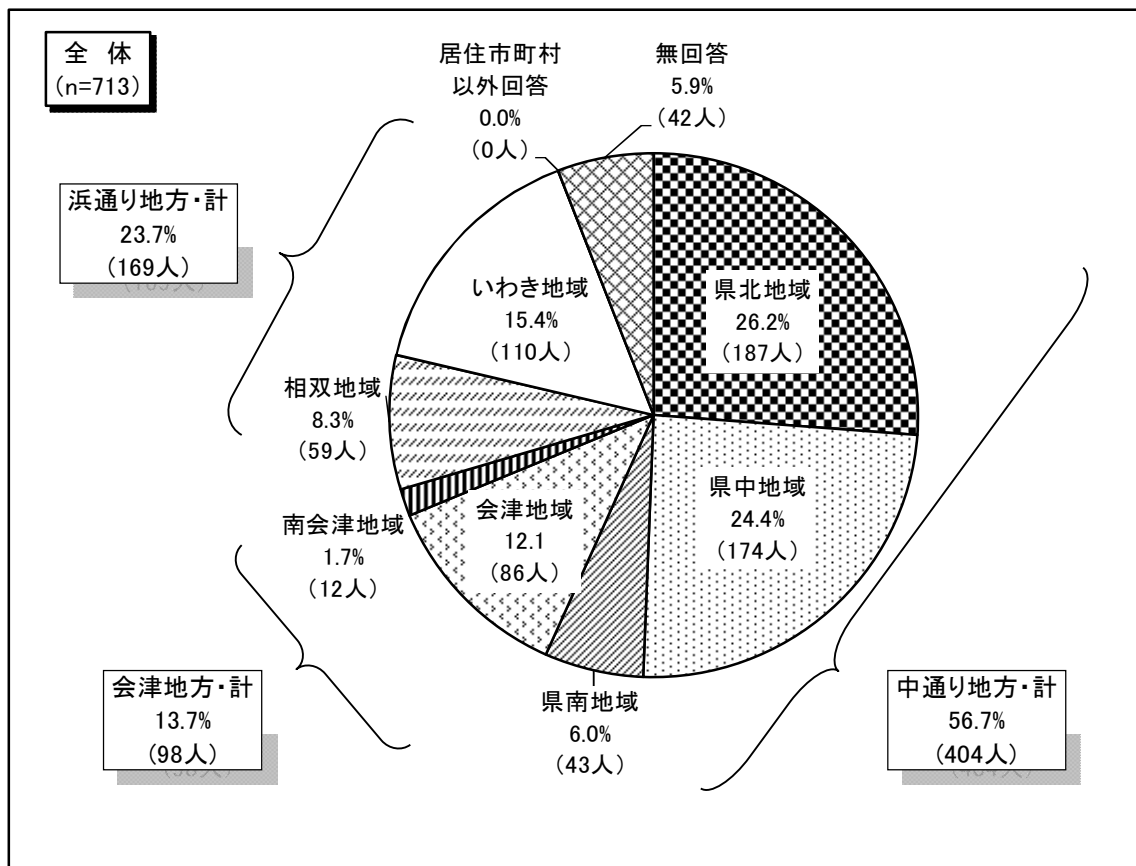
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り 地方	県北地域	福島市	114	16.0
		二本松市	26	3.6
		伊達市	22	3.1
		本宮市	12	1.7
		川俣町	7	1.0
		桑折町	6	0.8
		郡山市	112	15.7
	県中地域	須賀川市	22	3.1
		田村市	16	2.2
		鏡石町	11	1.5
		玉川村	6	0.8
		三春町	7	1.0
	県南地域	白河市	19	2.7
		西郷村	7	1.0
		矢吹町	4	0.6
		棚倉町	13	1.8

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津 地方	会津地域	会津若松市	38	5.3
		喜多方市	17	2.4
		磐梯町	6	0.8
		会津坂下町	17	2.4
		会津美里町	8	1.1
		A 南会津町	12	1.7
	浜通り地方	相馬市	14	2.0
相双地域	南相馬市	20	2.8	
	富岡町	7	1.0	
	双葉町	5	0.7	
	新地町	13	1.8	
	B いわき市	110	15.4	
		居住市町村以外回答	0	0.0
		居住市町村別無回答	42	5.9
		全体	713	100.0

A 南会津地域

B いわき地域

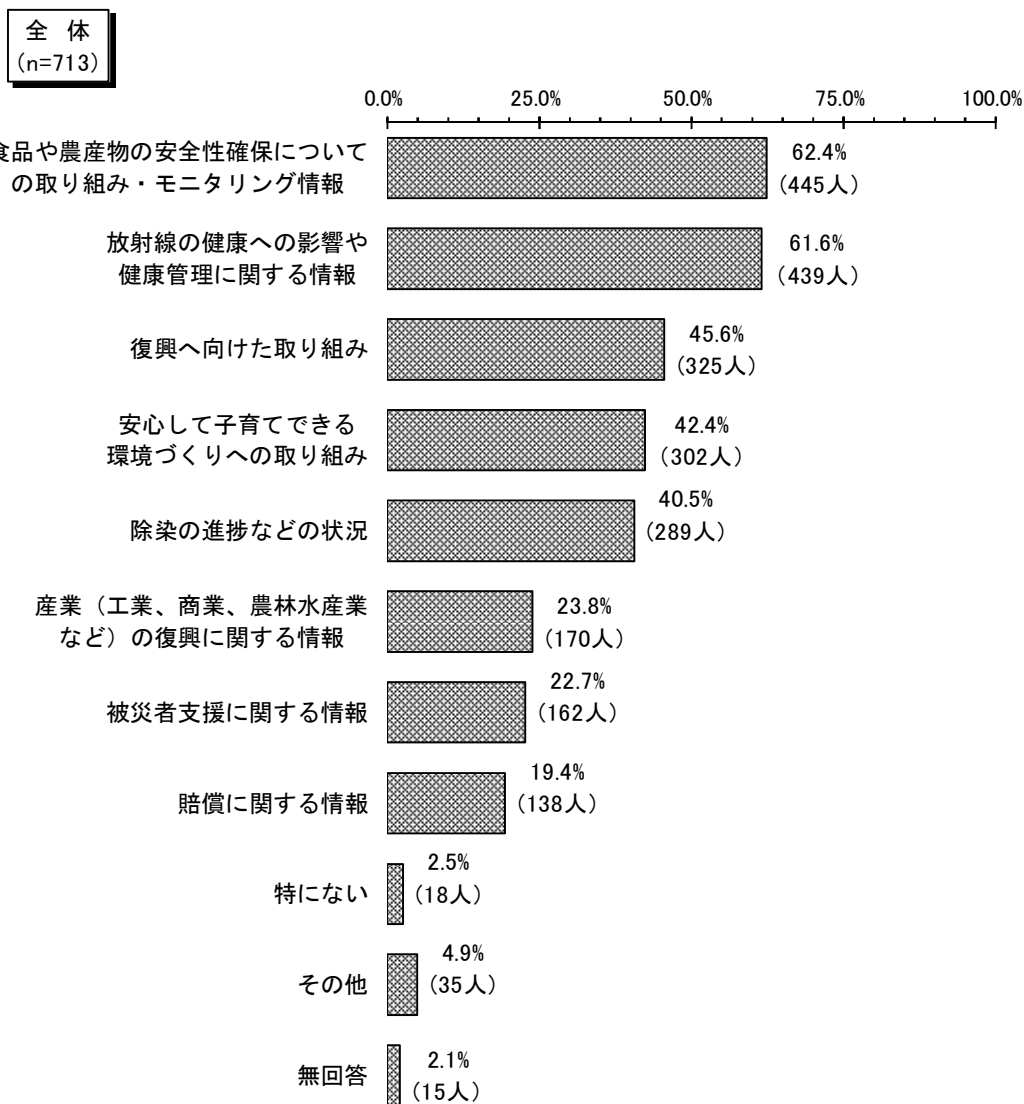
※居住市町村は平成27年6月1日現在の住民基本台帳による

Ⅱ 調査結果の解説

1. 復興に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

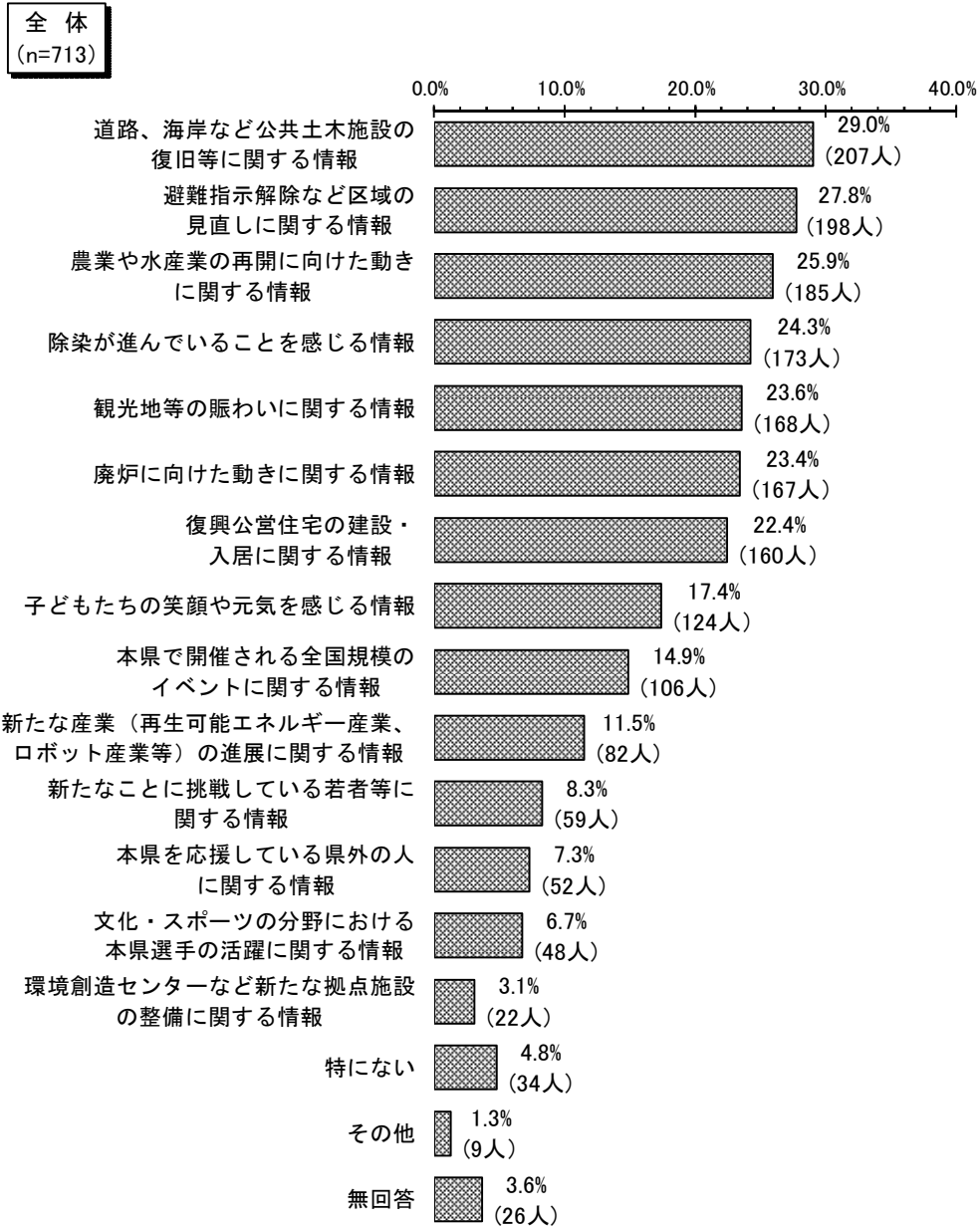
問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
あてはまるものはいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性についての取り組み・モニタリング情報」(62.4%)や「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(61.6%)が多く6割台となっている。以下、「復興へ向けた取り組み」(45.6%)と「安心して子育てできる環境づくりへの取り組み」(42.4%)と「除染の進捗などの状況」(40.5%)が4割台で続いている。

(2) 復興が進んでいると感じる情報

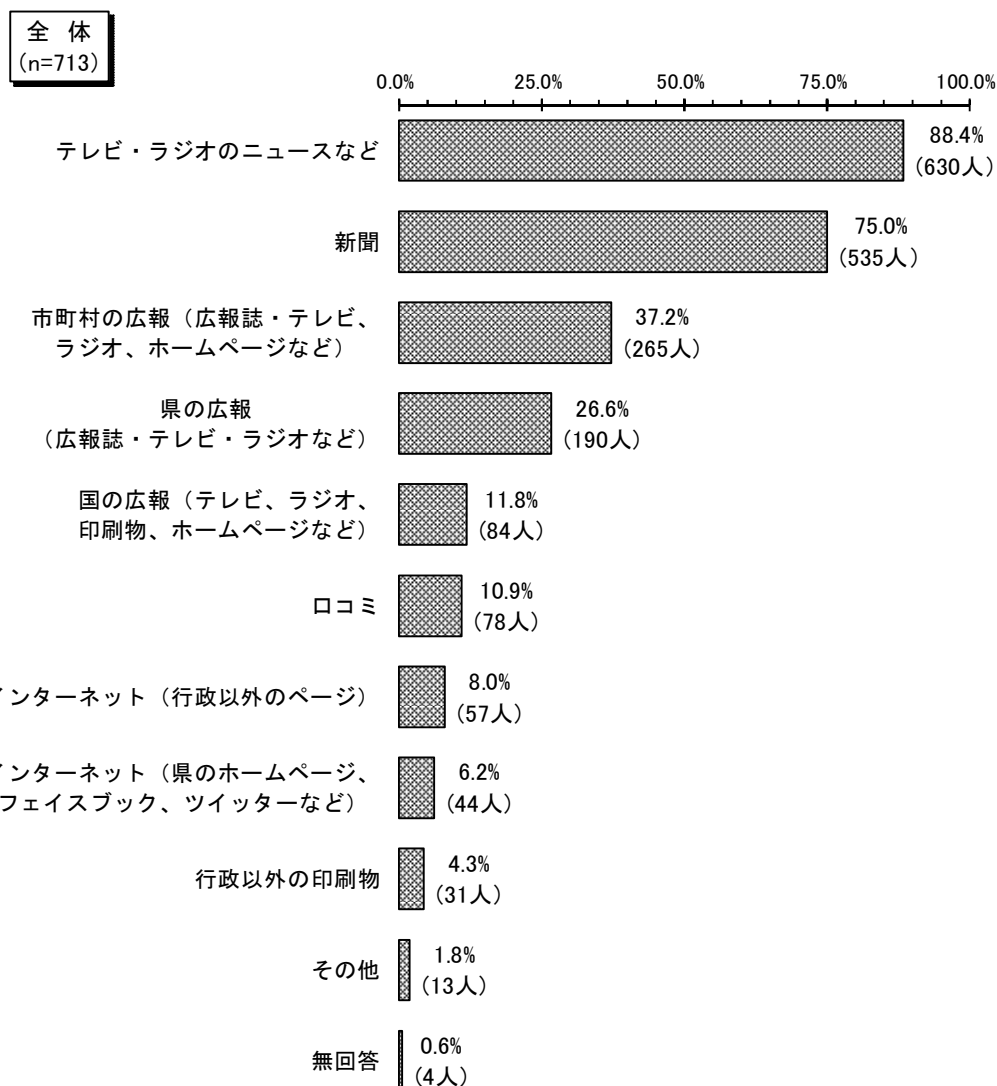
問2 復興が前に進んでいると感じるのは、どのような情報を得たときですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



復興が進んでいると感じる情報としては、「道路、海岸など公共土木施設の復旧等に関する情報」(29.0%)が最も多く、約3割となっている。以下、「避難指示解除など区域の見直しに関する情報」(27.8%)、「農業や水産業の再開に向けた動きに関する情報」(25.9%)、「除染が進んでいると感じる情報」(24.3%)、「観光地等の賑わいに関する情報」(23.6%)、「廃炉に向けた動きに関する情報」(23.4%)、「復興公営住宅の建設・入居に関する情報」(22.4%)が2割台で続いている。

(3) 復興状況に関する情報の入手先

問3 本県の復興の状況に関する情報については主に何で入手していますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

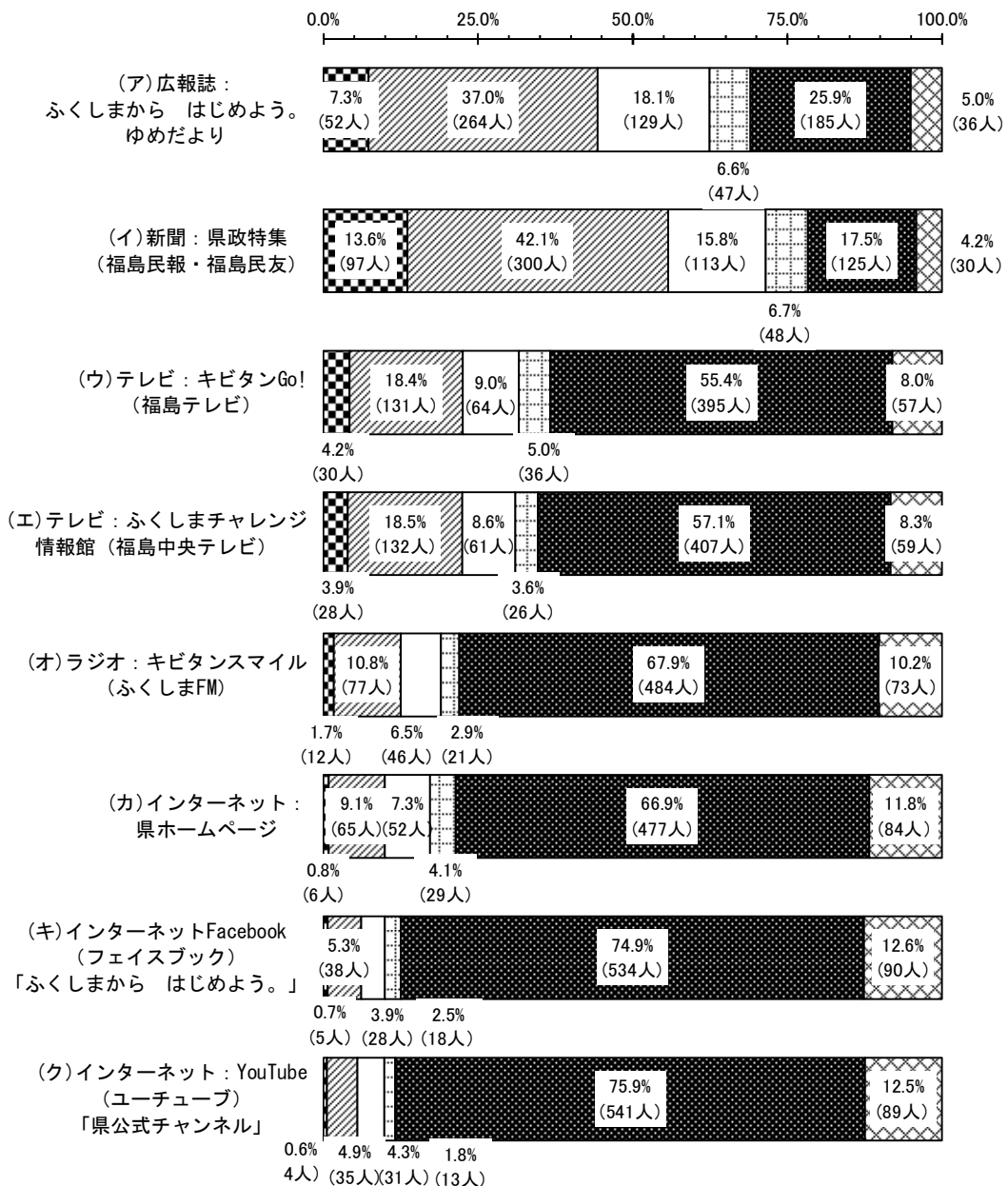
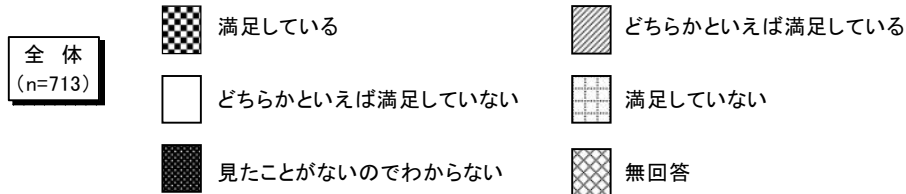


復興の状況に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(88.4%)が最も多く、9割弱となっている。以下、「新聞」(75.0%)が7割台、「市町村の広報(広報誌・テレビ・ラジオ、ホームページなど)」(37.2%)が3割台、「県の広報(広報誌・テレビ・ラジオなど)」(26.6%)が2割台、「国の広報(テレビ・ラジオ・印刷物、ホームページなど)」(11.8%)と「口コミ」(10.9%)が1割台となっている。

(4) 県の広報活動の満足度

問4 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

(ア)～(ク)についてそれぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

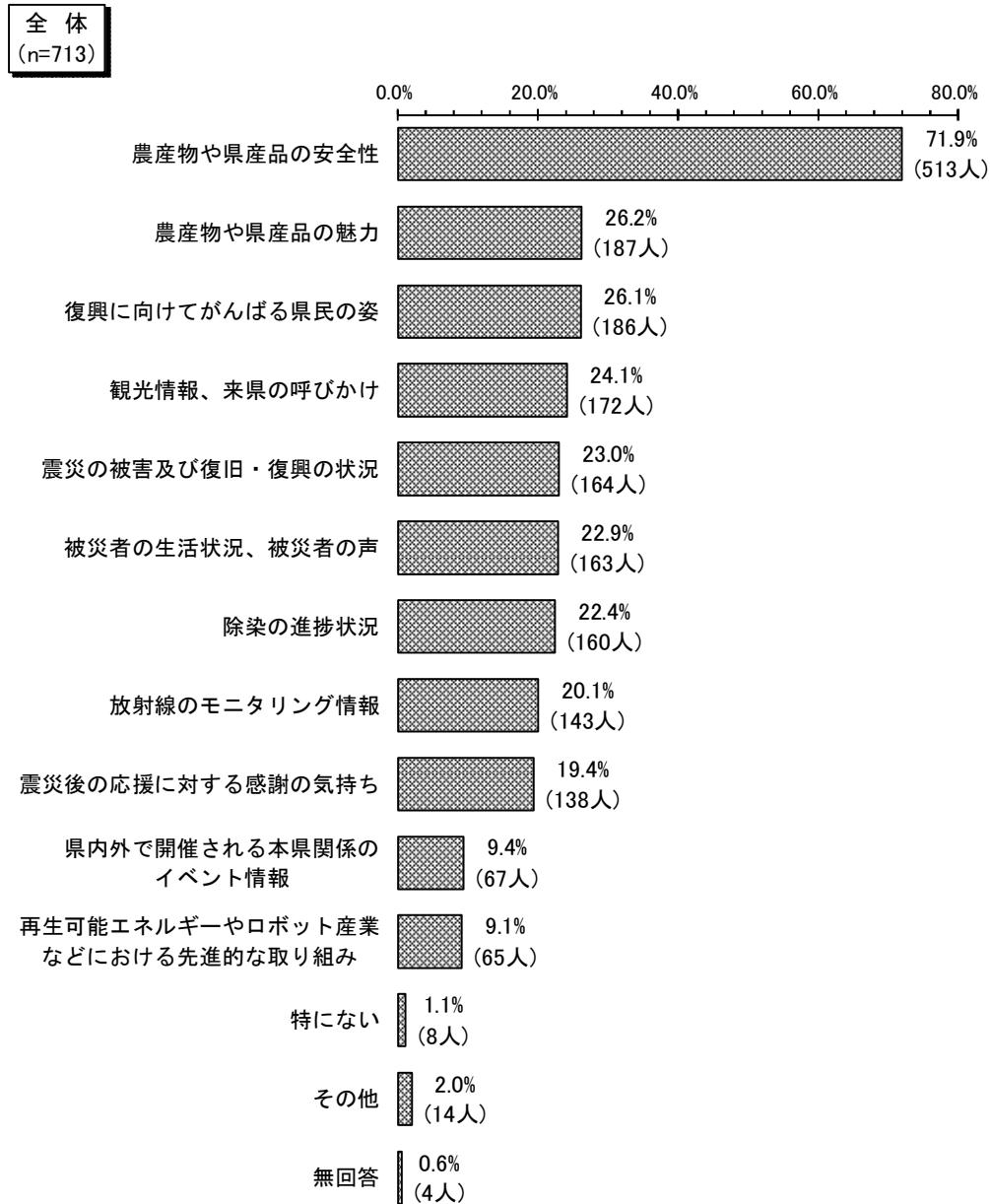


県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（55.7%）が最も多く、過半数となっている。以下、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（44.3%）が4割台、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週木曜日 21:54～22:00）』〉（22.6%）、〈テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週日曜日 11:25～11:30）』〉（22.4%）が2割台、〈ラジオ『キビタンスマイル（ふくしまFM：毎週月～金曜日 17:30～17:35）』〉（12.5%）、〈インターネット『県ホームページ』〉（10.0%）が1割台となっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（24.7%）が全体の4分の1を占め最も高くなっている。次いで、あまり差がなく〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（22.6%）が続いている。以下、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週木曜日 21:54～22:00）』〉（14.0%）、〈テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週日曜日 11:25～11:30）』〉（12.2%）、〈インターネット『県ホームページ』〉（11.4%）となっている。

(5) 県外に発信すべき内容

問5 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

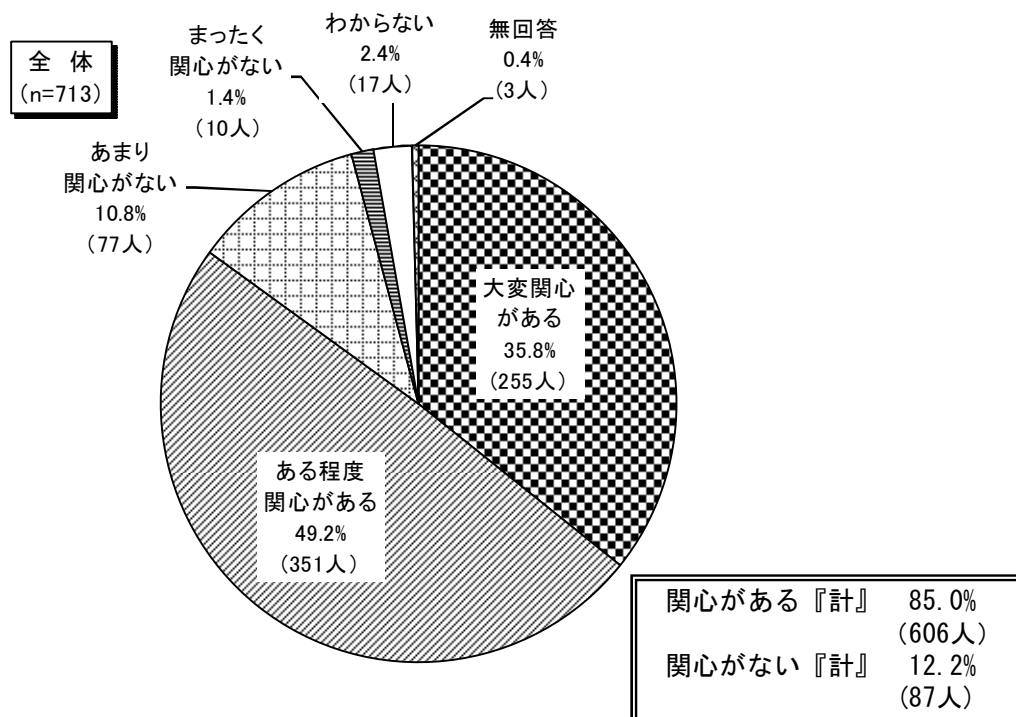


福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性について」(71.9%)が最も多くなっている。以下、「農産物や県産品の魅力」(26.2%)、「復興に向けてがんばる県民の姿」(26.1%)、「観光情報、来県の呼びかけ」(24.1%)、「震災の被害及び復旧・復興の状況」(23.0%)、「被災者の生活状況、被災者の声」(22.9%)、「除染の進捗状況」(22.4%)、「放射線のモニタリング情報」(20.1%)が2割台、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(19.4%)が1割台で続いている。

2. 心の健康について

(1) 心の健康への関心の有無

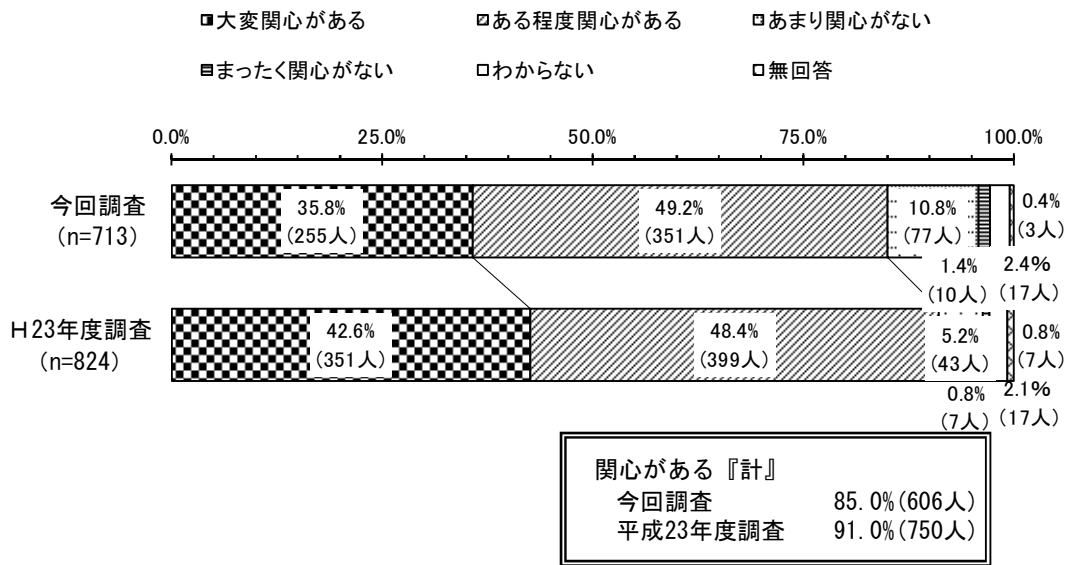
問6 あなたは心の健康について関心がありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



心の健康に「大変関心がある」と回答した人は 35.8%で、これに「ある程度関心がある」(49.2%)を合わせた『関心がある』計の割合は 85.0%となっている。

一方、「まったく関心がない」は 1.4%で、これに「あまり関心がない」(10.8%)を合わせた『関心がない』計の割合は 12.2%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

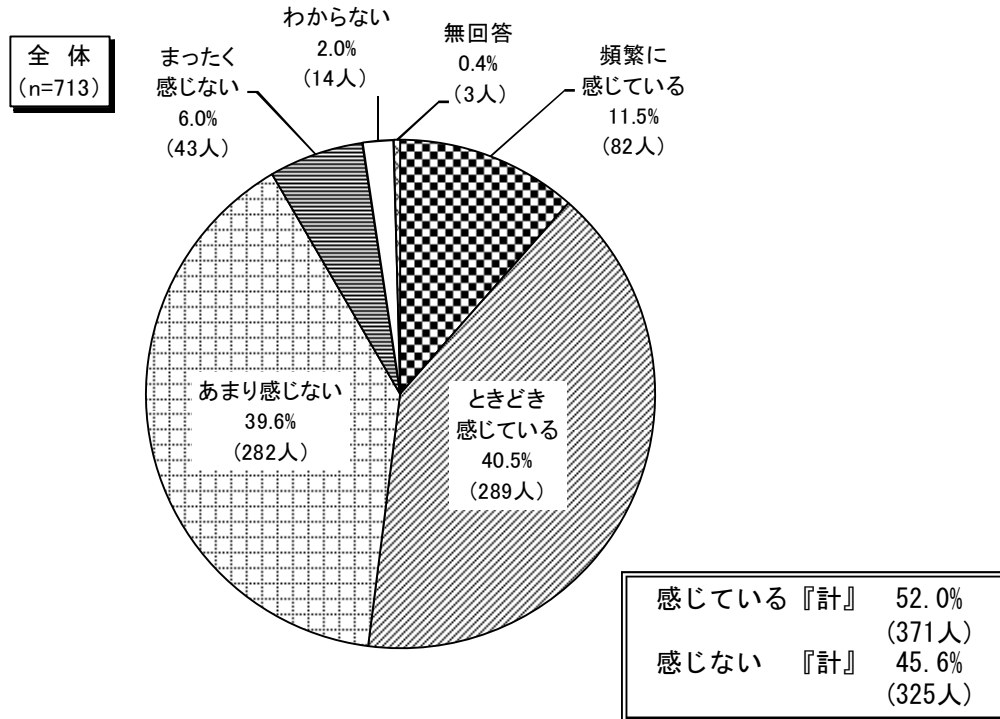


『関心がある』計（今回調査 85.0%、平成 23 年度調査 91.0%）の割合は、今回調査の方が減少している。

(2) 精神的な疲労の認識

問7 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。

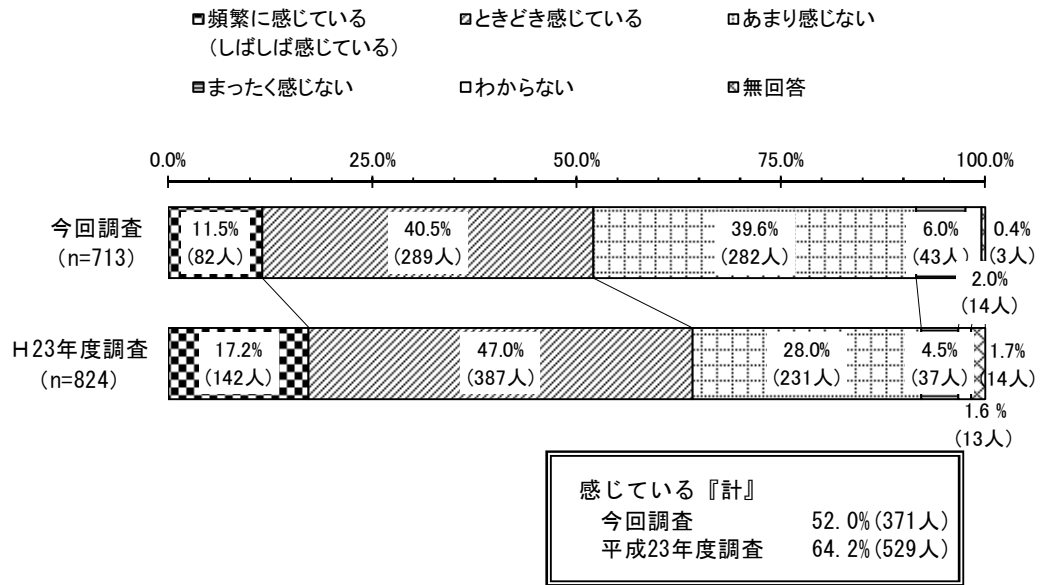
あてはまるもの1つに○をつけてください。



気分の落ち込みや精神的な疲労を「頻繁に感じている」と回答した人は 11.5%で、これに「ときどき感じている」(40.5%)を合わせた『感じている』計の割合は 52.0%となっている。

一方、「まったく感じない」は 6.0%で、これに「あまり感じない」(39.6%)を合わせた『感じない』計の割合は 45.6%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



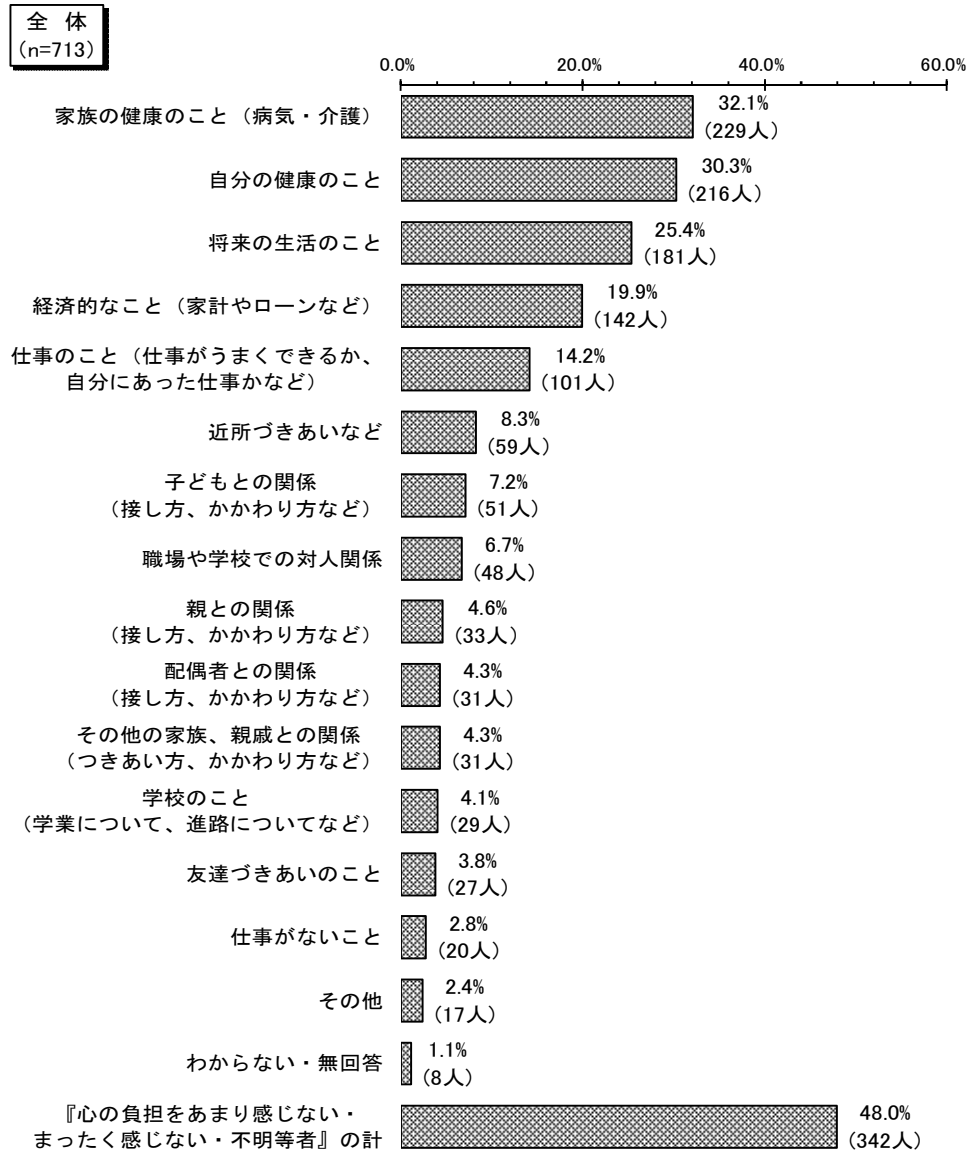
『感じている』計（今回調査 52.0%、平成 23 年度調査 64.2%）の割合は、今回調査の方が減少している。

(3) 心の負担になっていること

(問7で、「1 頻繁に感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問7-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

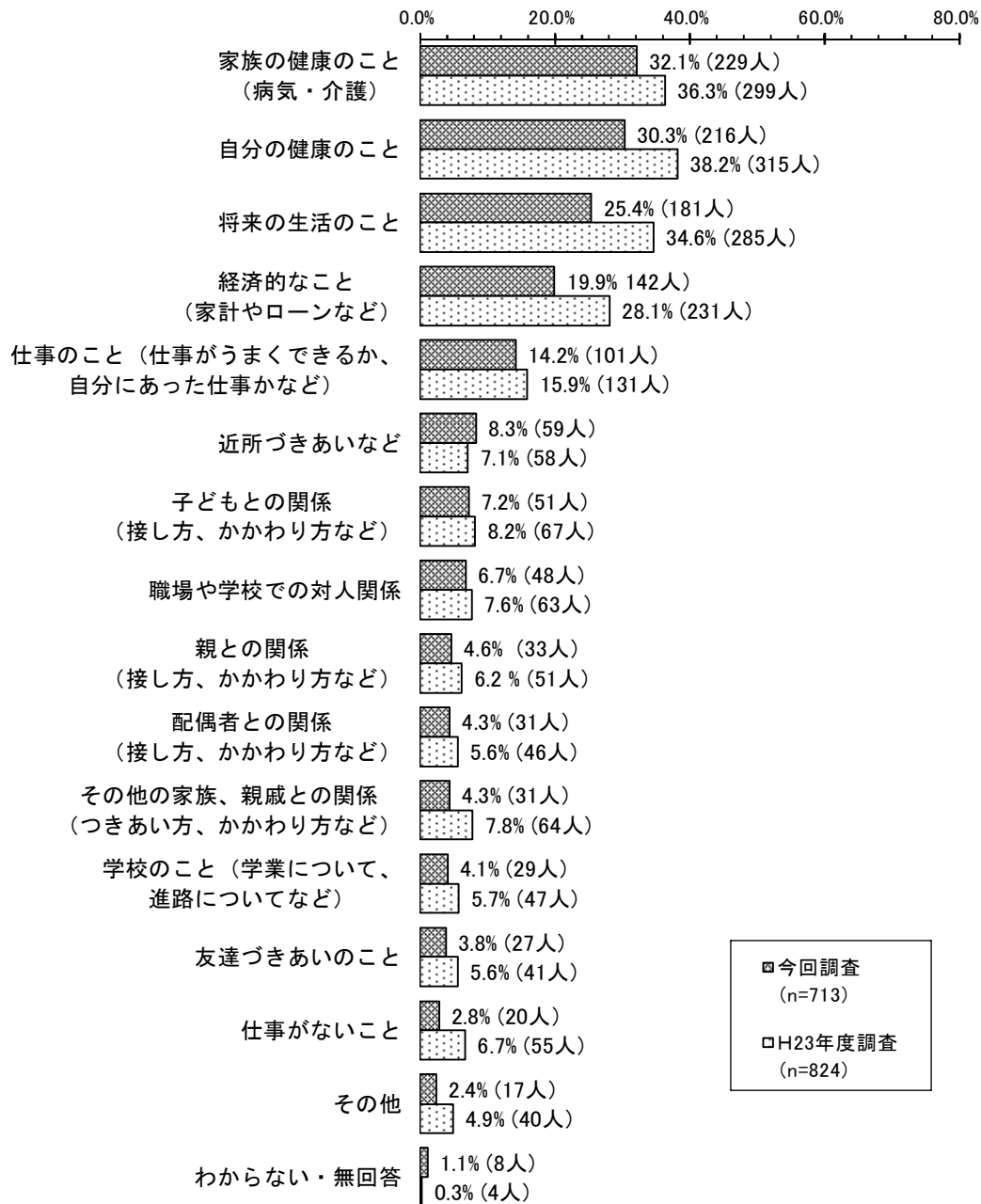
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)



心の負担になることは、「家族の健康のこと (病気、介護)」(32.1%) が最も多く3割強となっている。以下、「自分の健康のこと」(30.3%) が同じく3割台、「将来の生活のこと」(25.4%) が2割台、「経済的なこと (家計やローンなど)」(19.9%) が約2割、「仕事のこと (仕事うまくできるか、自分にあった仕事かなど)」(14.2%) が1割台などとなっている。

一方、『心の負担をあまり感じない・まったく感じない・不明等者』の計の割合は48.0%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



どのようなことが県民に心の負担として感じられているかについて示した。

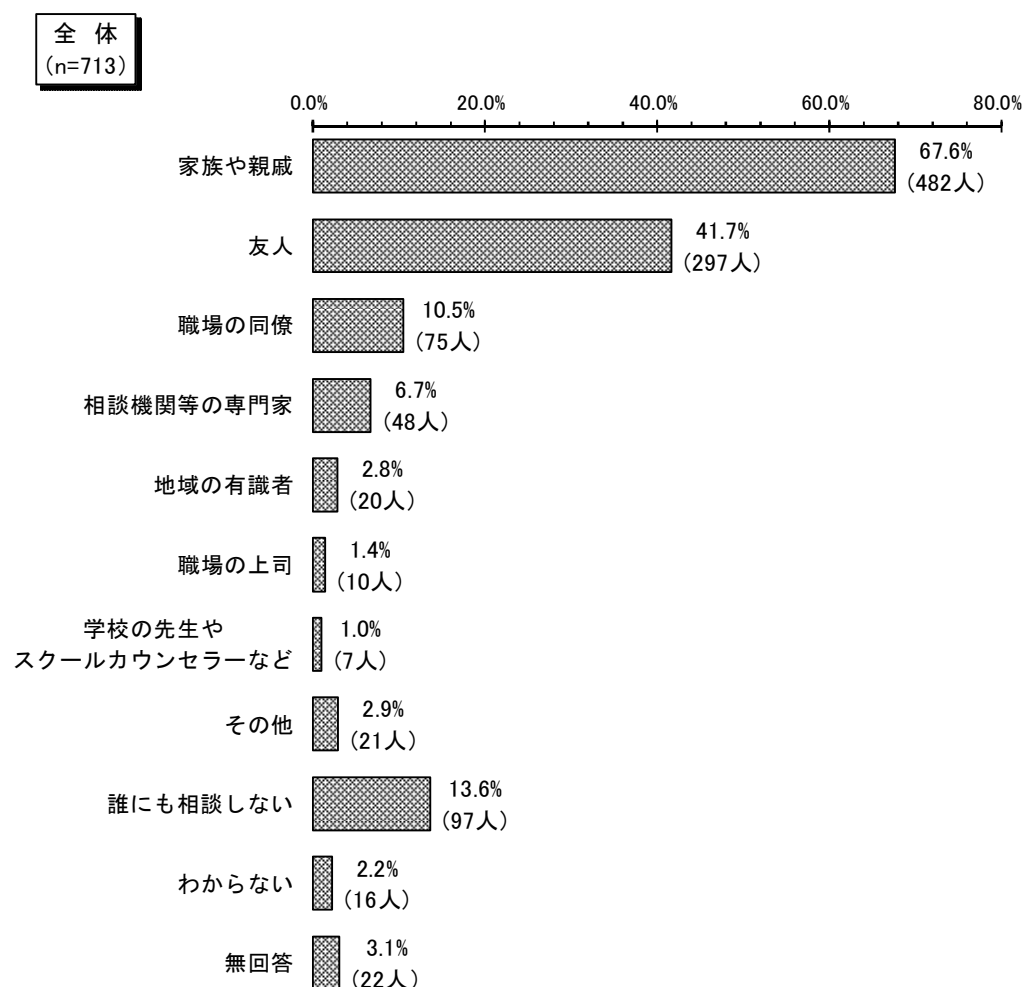
平成 23 年度調査と比べて、『心の負担を頻繁に感じる・ときどき感じる』と回答した割合が低下したことを反映し、「近所づきあいなど」以外はすべて低下した。

低下幅が大きかったのは「自分の健康のこと」「将来の生活のこと」「経済的なこと」で、いずれも 5 ポイント以上低下した。

低下率が大きかったのは「仕事がないこと」「その他の家族、親せきとの関係」で、いずれも平成 23 年度比で 40%以上低下した。

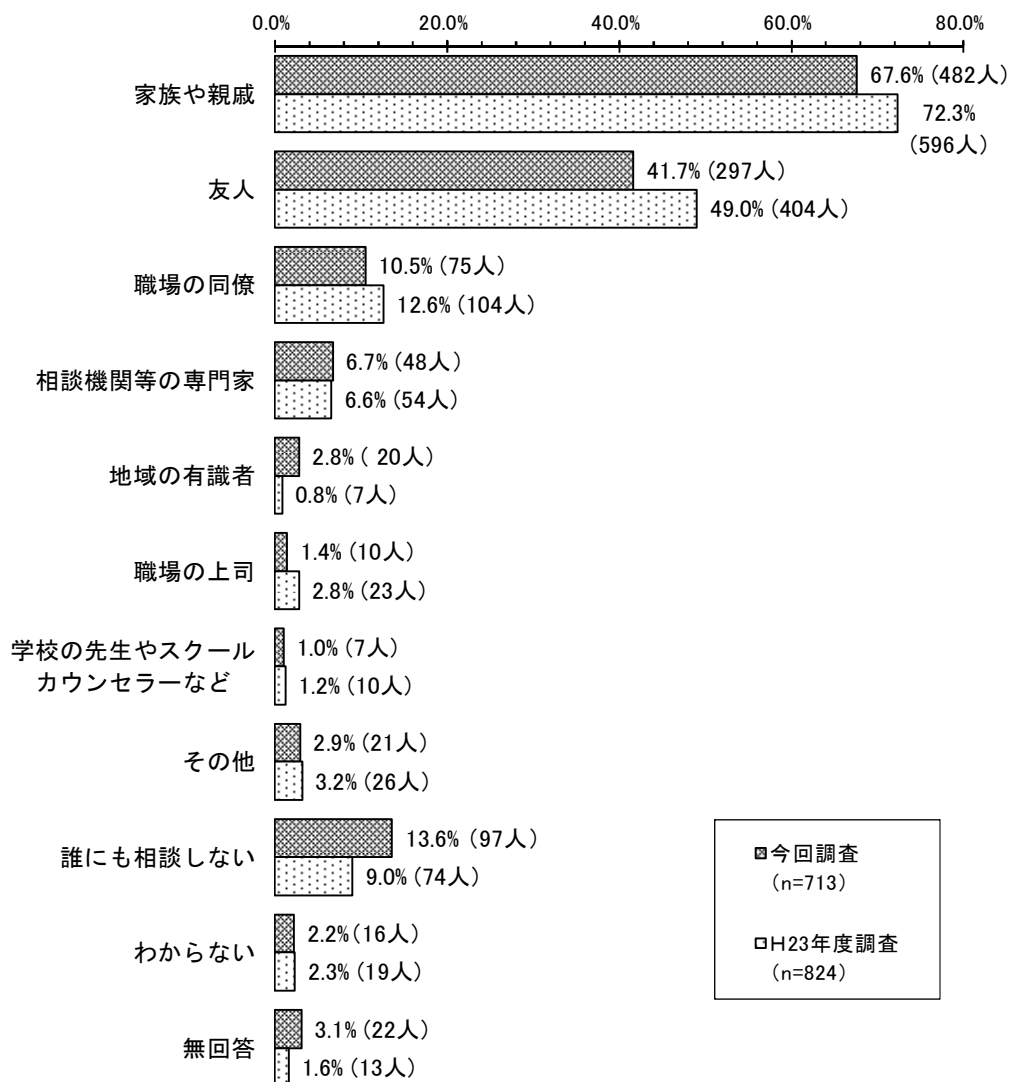
(4) 心の健康についての相談先

問8 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)



心の健康の相談先は「家族や親戚」(67.6%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「友人」(41.7%)が4割台、「職場の同僚」(10.5%)が1割台となっている。一方、「誰にも相談しない」が13.6%、「わからない」が2.2%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

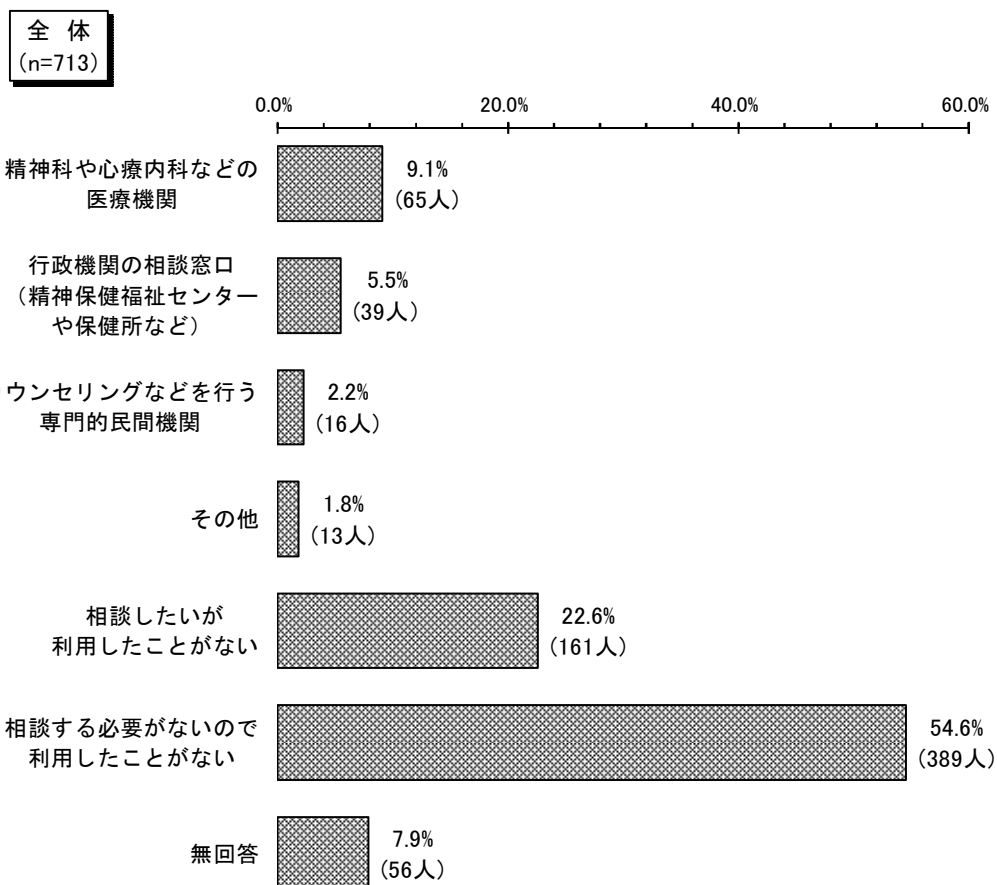


今回調査では平成 23 年度調査と同様の傾向が見られるが、「友人」の割合は、平成 23 年度調査に比べて 5 ポイント以上減少している。

(5) 利用したことのある相談機関

問9 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。

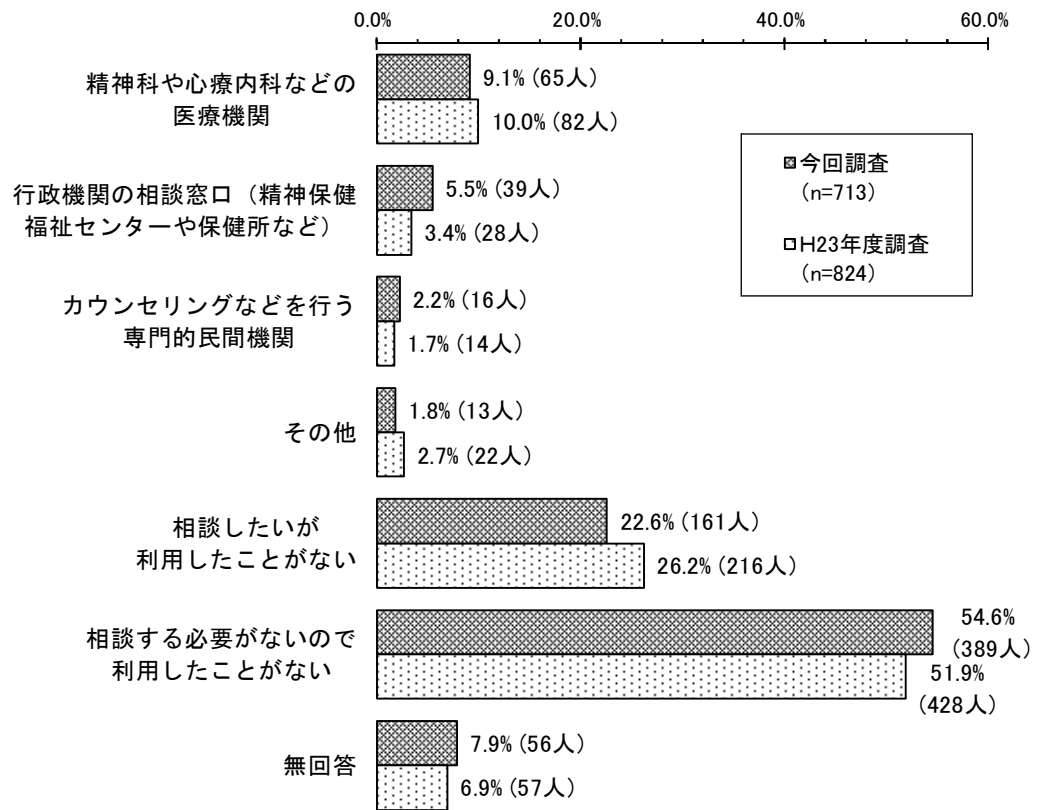
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)



利用したことのある相談機関については、「相談する必要があるのに利用したことがない」(54.6%)が最も多く5割を超えている。次いで、「相談したいが利用したことがない」(22.6%)の順となっている。

一方、利用したことのある相談機関で回答が最も多かったものは、「精神科や心療内科などの医療機関」の9.1%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

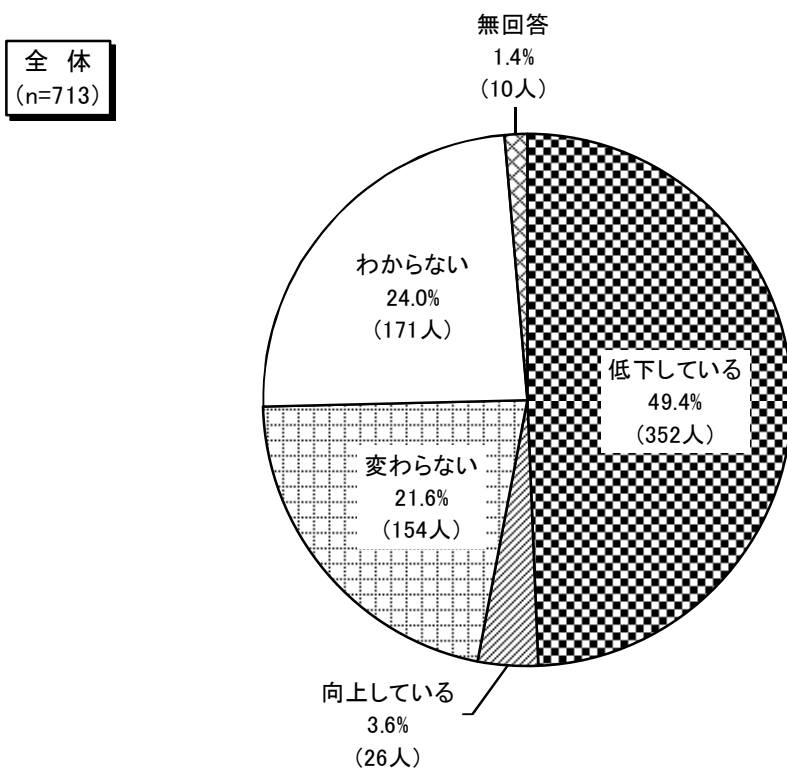


今回調査では平成 23 年度調査と同様の傾向が見られる。

3. 青少年の健全育成について

(1) 『地域の養育力』について

問10 あなたは、一般的に「地域の養育力」は低下していると思いますか。
あてはまるものに1つに○をつけてください。

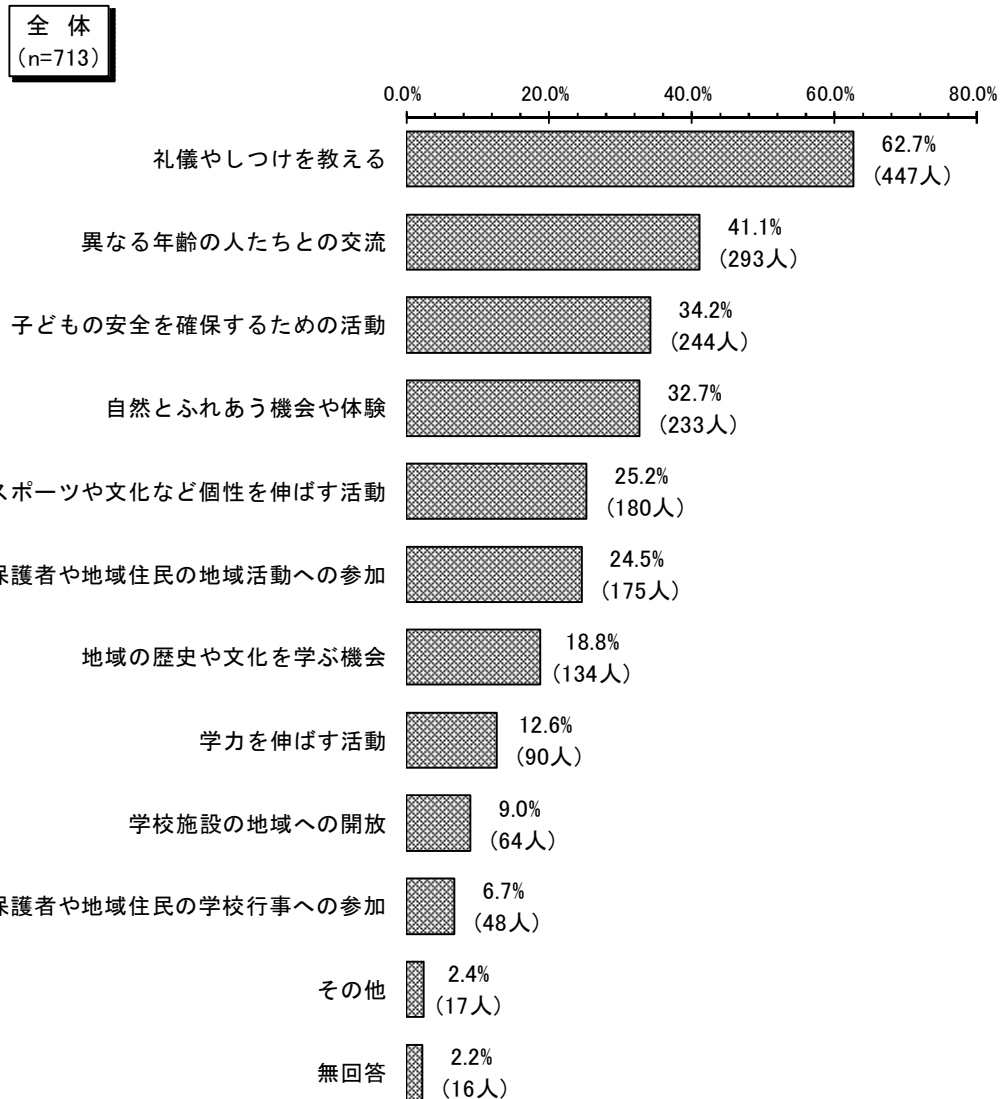


『地域の養育力』について「低下している」と回答した人は 49.4%と高く、半数弱となっている。「変わらない」(21.6%)が2割強で続いている。

(2) 地域で特に力を入れるべきこと

問11 子ども（主として小学生・中学生）を健やかに育むために、あなたが地域で特に力を入れるべきと考えるものはどれですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

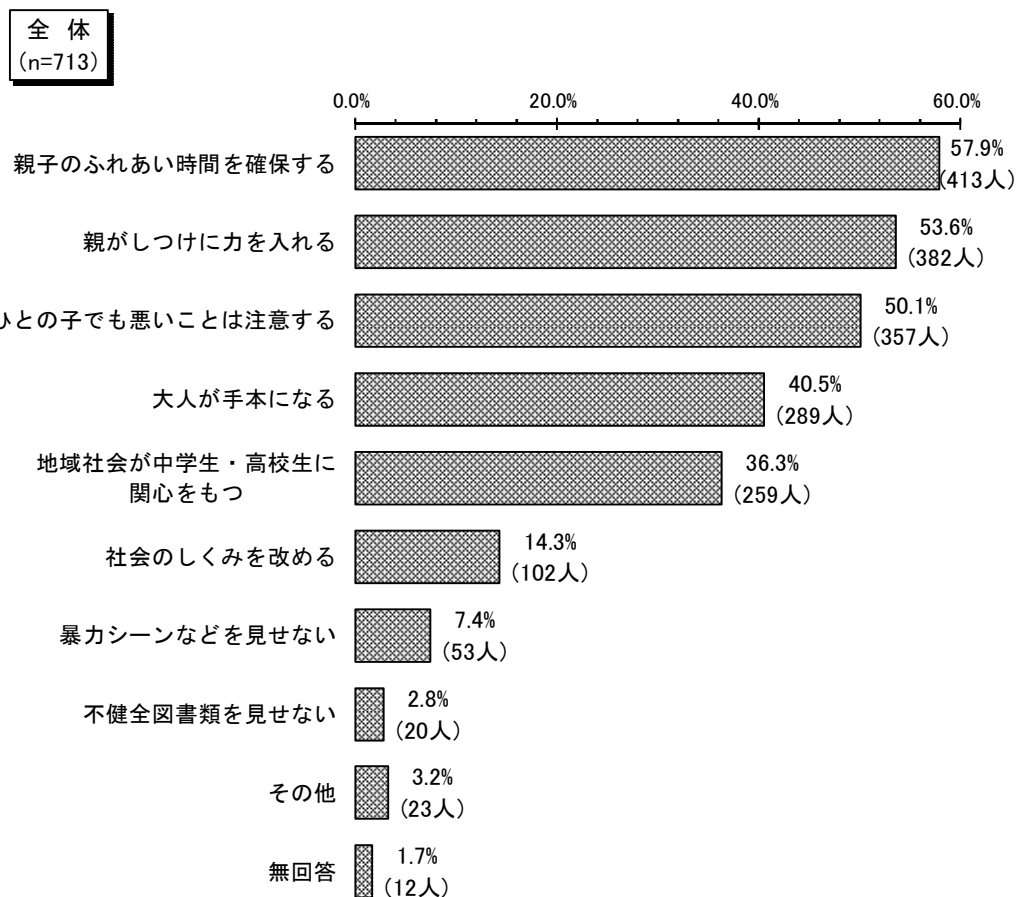


地域で特に力を入れるべきことは、「礼儀やしつけを教える」(62.7%)が最も多く、6割強となっている。以下、「異なる年齢の人たちとの交流」(41.1%)が4割台、「子どもの安全を確保するための活動」(34.2%)と「自然とふれあう機会や体験」(32.7%)が3割台となっている。

(3) 非行を防ぐために重要なこと

問12 あなたが、中学生・高校生の非行を防ぐための方法として、特に重要である
と考えるものは何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

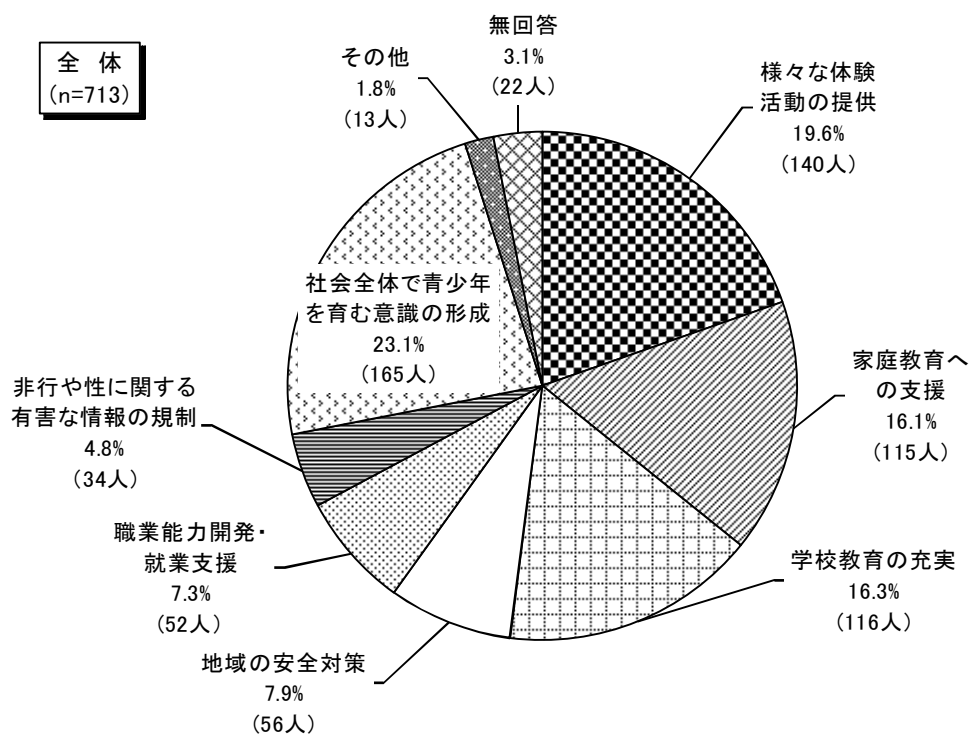


非行を防ぐために重要なことは、「親子のふれあい時間を確保する」(57.9%)が最も多く、6割弱となっている。以下、「親がしつげに力を入れる」(53.6%)と「ひとの子でも悪いことは注意する」(50.1%)が5割台、「大人が手本になる」(40.5%)が4割台、「地域社会が中学生・高校生に関心をもつ」(36.3%)が3割台となっている。

(4) 行政が特に力を入れるべき分野

問13 青少年が健やかに成長するために、行政が特に力を入れるべきと考える分野は何ですか。

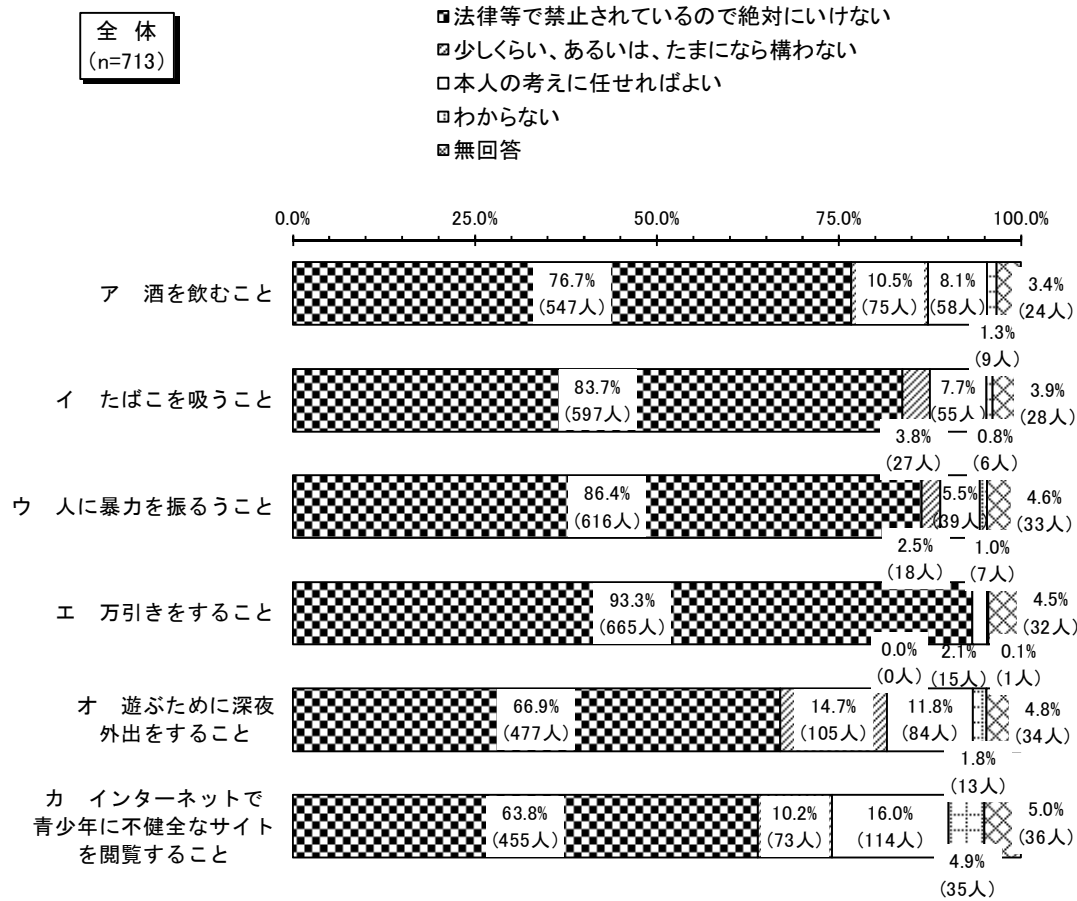
あてはまるもの1つに○をつけてください。



行政が特に力を入れるべき分野としては、「社会全体で青少年を育む意識の形成」(23.1%)が最も多く2割強となっている。以下、「様々な体験活動の提供」(19.6%)、「学校教育の充実」(16.3%)、「家庭教育への支援」(16.1%)が1割台となっている。

(5) 高校生の行動について

問 14 あなたは、高校生が次のア～オをすることについて、どのように思いますか。
それぞれ1～4の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



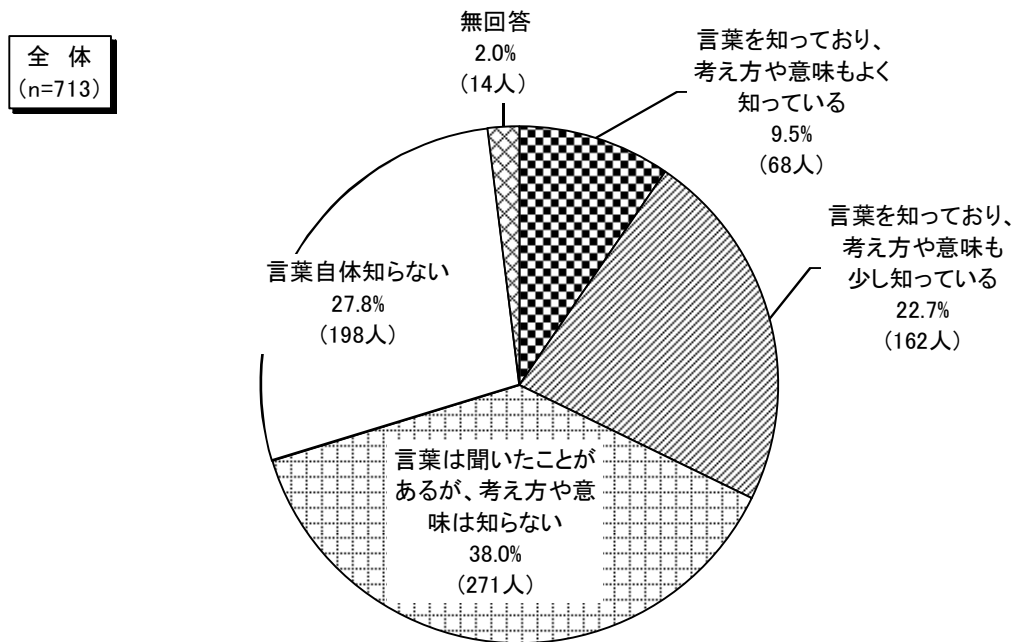
高校生の行動について、「法律等で禁止されているので絶対にいけない」の割合をみると、＜エ 万引きをすること＞（93.3%）が最も多く、9割強となっている。以下、＜ウ 人に暴力を振るうこと＞（86.4%）と＜イ たばこを吸うこと＞（83.7%）が8割台、＜ア 酒を飲むこと＞（76.7%）が7割台、＜オ 遊ぶために深夜外出をすること＞（66.9%）、＜カ インターネットで青少年に不健全なサイトを閲覧すること＞（63.8%）が6割台となっている。

一方、「少しくらい、あるいは、たまになら構わない」の割合は、＜オ 遊ぶために深夜外出をすること＞（14.7%）が、「本人の考えに任せればよい」の割合は、＜カ インターネットで青少年に不健全なサイトを閲覧すること＞（16.0%）が最も高くなっている。

4. ユニバーサルデザインについて

(1) 言葉の認知状況

問 15 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉について知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

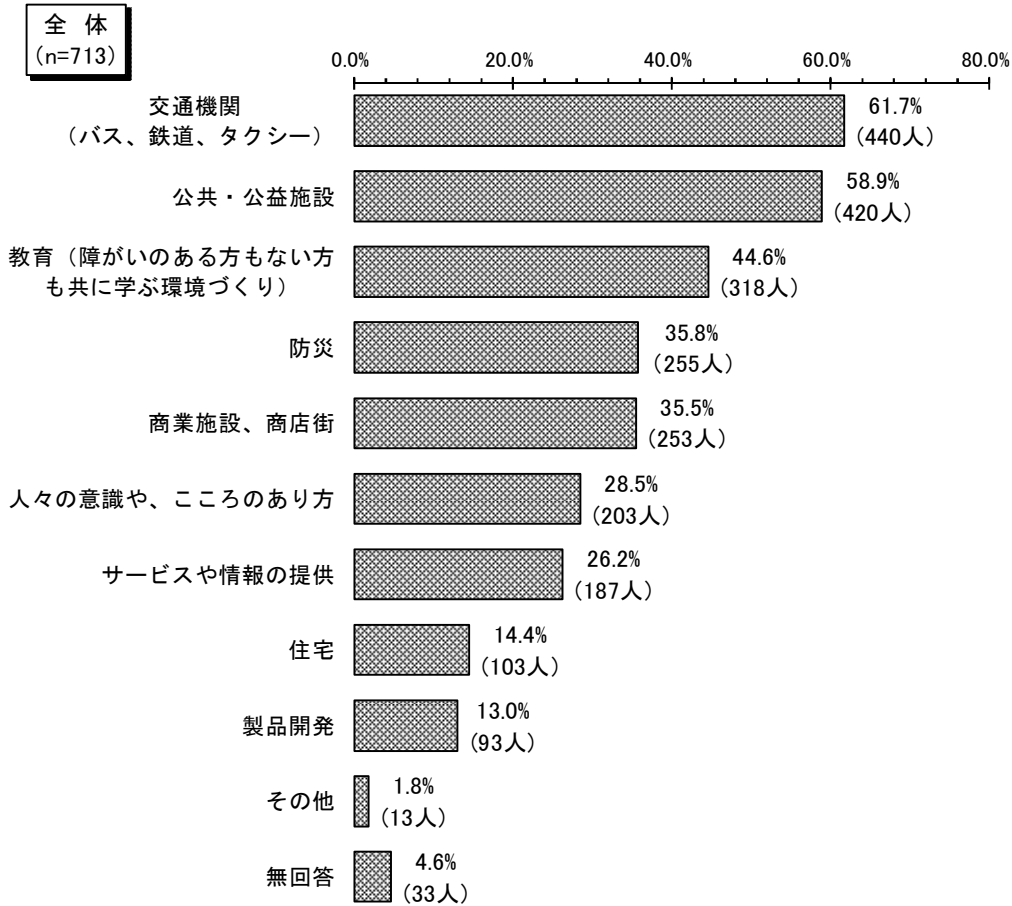


ユニバーサルデザインという言葉について、「言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない」(38.0%)の割合が最も高く、次いで、「言葉自体知らない」(27.8%)となっている。以下、「言葉を覚えており、考え方や意味を少し知っている」(22.7%)、「言葉を覚えており、考え方や意味もよく知っている」(9.5%)と続いている。

(2) 導入が必要なもの

問 16 あなたが、県内で、ユニバーサルデザインの考え方を導入することが必要だと考えるのはどれですか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



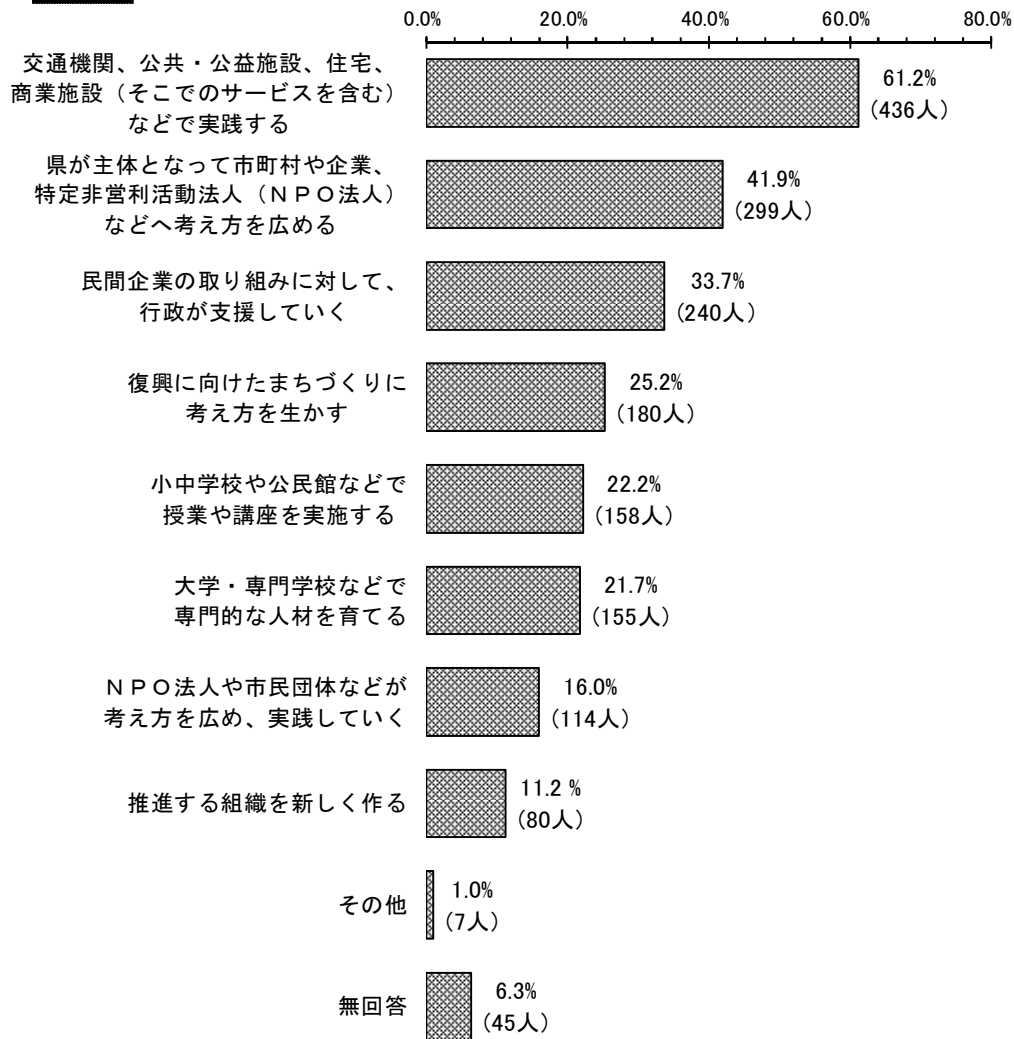
ユニバーサルデザインの考え方の導入が必要なものとしては、「交通機関 (バス、鉄道、タクシー)」(61.7%)の割合が最も高く、次いで、「公共・公益施設」(58.9%)が続き、以下、「教育 (障がいのある方もない方も共に学ぶ環境づくり)」(44.6%)、「防災」(35.8%)、「商業施設、商店街」(35.5%)、「人々の意識や、こころのあり方」(28.5%)、「サービスや情報の提供」(26.2%)となっている。

(3) 推進するために重要なもの

問17 あなたは、県内でユニバーサルデザインを推進するために、どのようなことが重要だと思いますか。

最も重要だと考えるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=713)



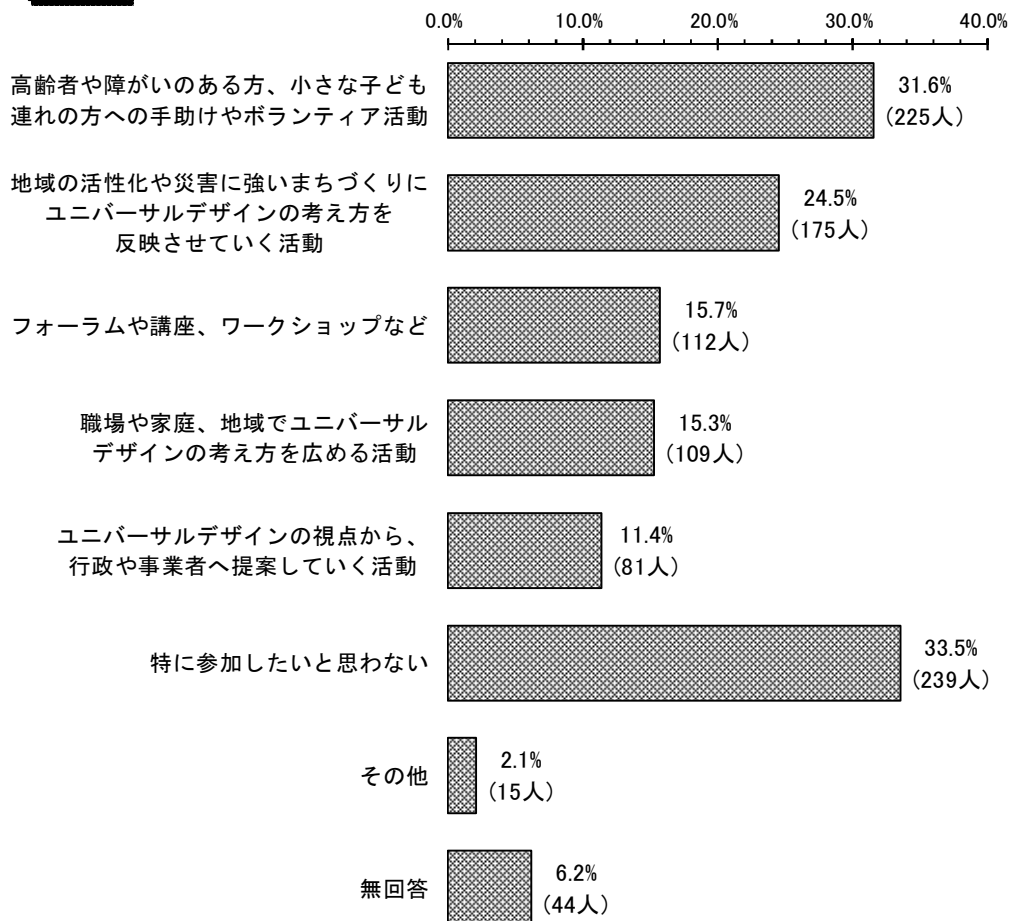
ユニバーサルデザインを推進するために重要なものとしては、「交通機関、公共・公益施設、住宅、商業施設（そこでのサービスを含む）などで実践する」（61.2%）の割合が6割強で最も高く、次いで、「県が主体となって市町村や企業、特定非営利活動法人（NPO法人）などへ考え方を広める」（41.9%）が続き、以下、「民間企業の取り組みに対して、行政が支援していく」（33.7%）、「復興に向けたまちづくりに考え方を生かす」（25.2%）、「小中学校や公民館などで授業や講座を実施する」（22.2%）、「大学・専門学校などで専門的な人材を育てる」（21.7%）となっている。

(4) 参加したい活動

問 18 あなたは、ユニバーサルデザインに関する活動で、参加したいものがありますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=713)



ユニバーサルデザインに関する活動で参加したいものとしては、「高齢者や障がいのある方、小さな子ども連れの方への手助けやボランティア活動」(31.6%)の割合が最も高く、次いで、「地域の活性化や災害に強いまちづくりにユニバーサルデザインの考え方を反映させていく活動」(24.5%)が続き、以下、「フォーラムや講座、ワークショップなど」(15.7%)、「職場や家庭、地域でユニバーサルデザインの考え方を広める活動」(15.3%)、「ユニバーサルデザインの視点から、行政や事業者へ提案していく活動」(11.4%)となっている。

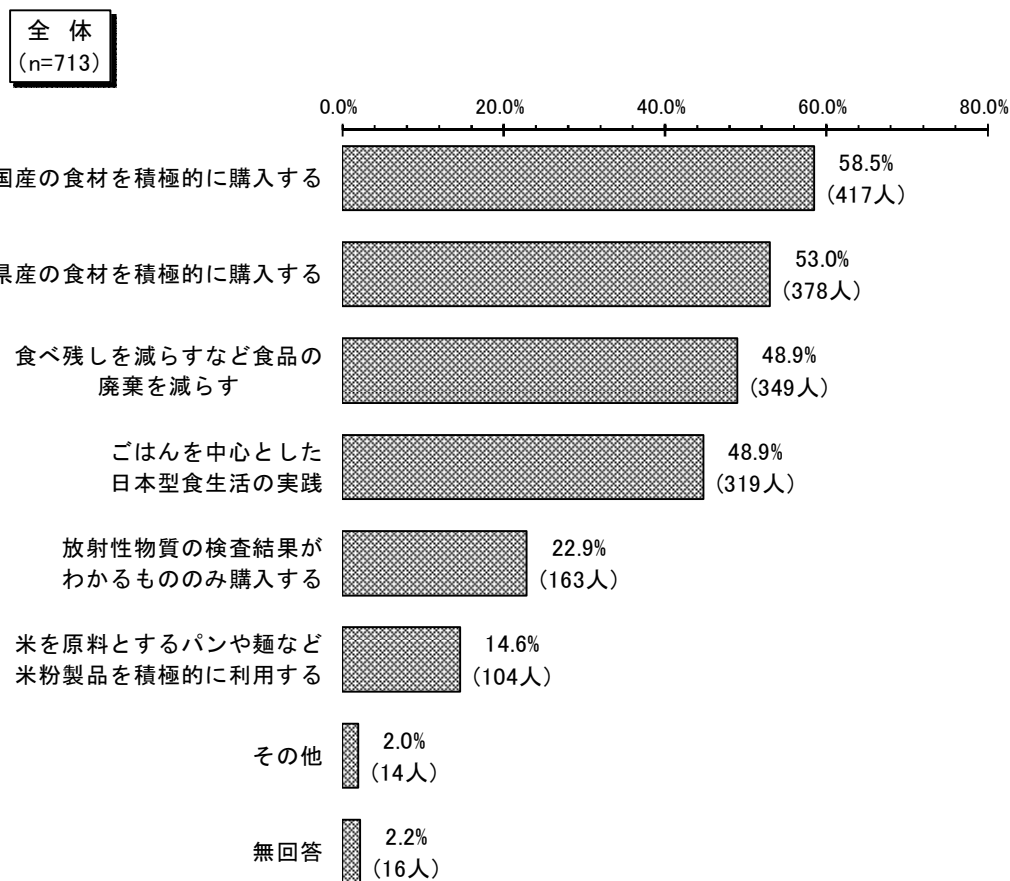
一方、「特に参加したいと思わない」(33.5%)の割合は、3割強と高くなっている。

5. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

問 19 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。

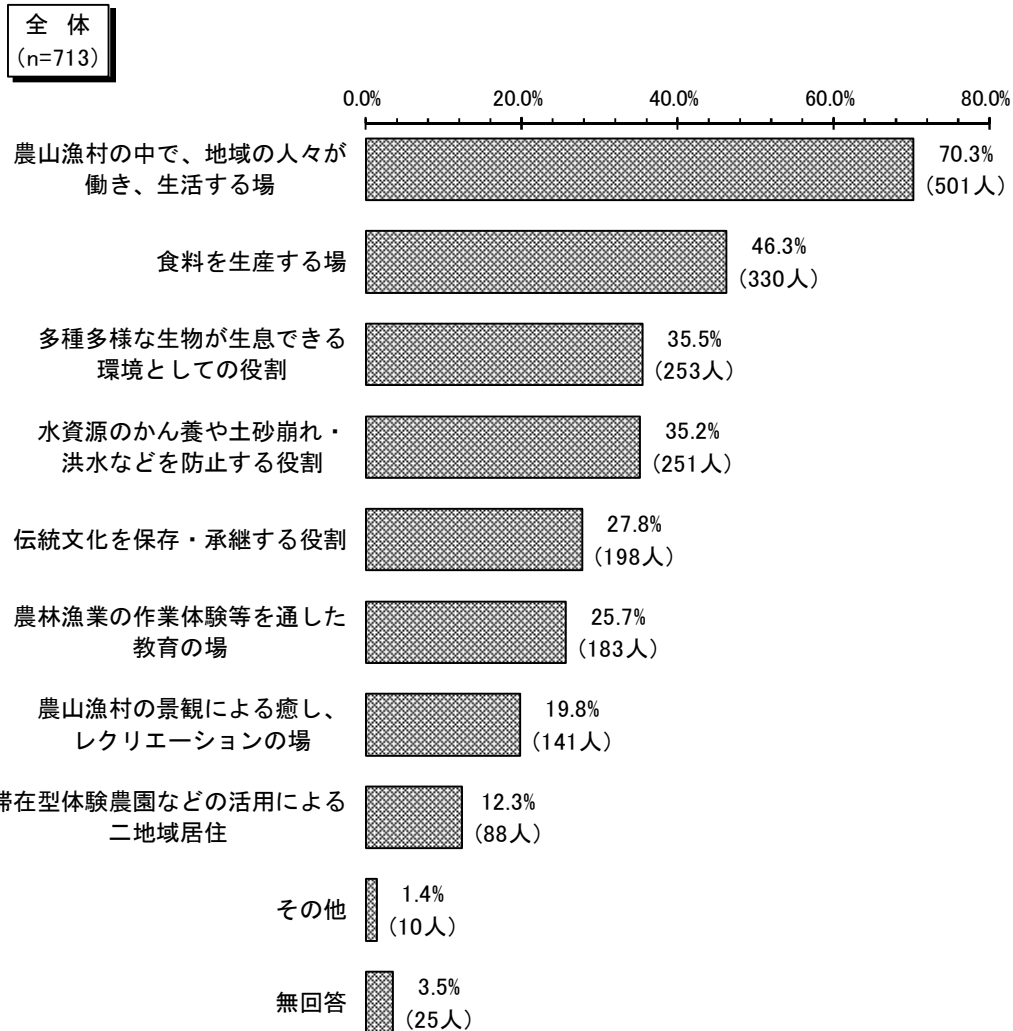
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



震災後、農林水産物の購入や食生活で実践または実践したいことは、「国産の食材を積極的に購入する」(58.5%)と回答した人が最も多く、6割弱となっている。以下、「県産の食材を積極的に購入する」(53.0%)は5割台、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(48.9%)と「ごはんを中心とした日本型食生活の実践」(44.7%)が4割台、「放射線物質の検査結果がわかるもののみ購入する」(22.9%)が2割台、「米を原料とするパンや麺など米粉製品を積極的に利用する」(14.6%)が1割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問 20 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)



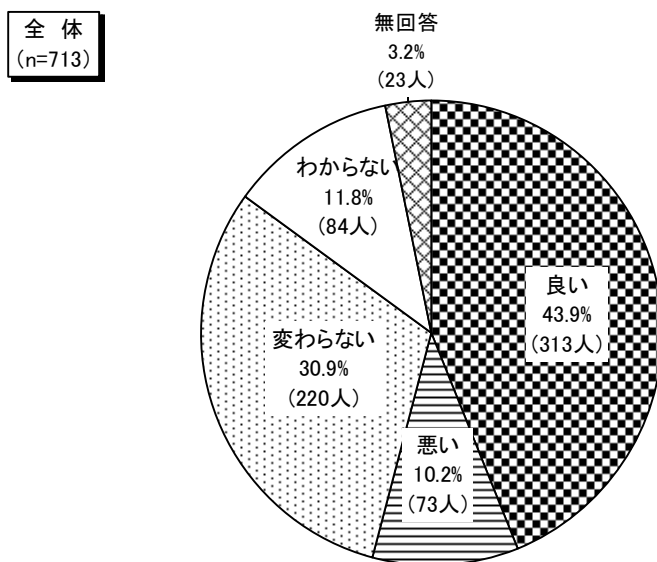
農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(70.3%)が最も多く、約7割となっている。次いで、「食料を生産する場」(46.3%)が4割台で続き、以下、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(35.5%)と「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(35.2%)が3割台、「伝統文化を保存・承継する役割」(27.8%)と「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(25.7%)が2割台、「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(19.8%)と「滞在型体験農園などの活用による二地域居住」(12.3%)が1割台となっている。

6. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）現在の治安状況

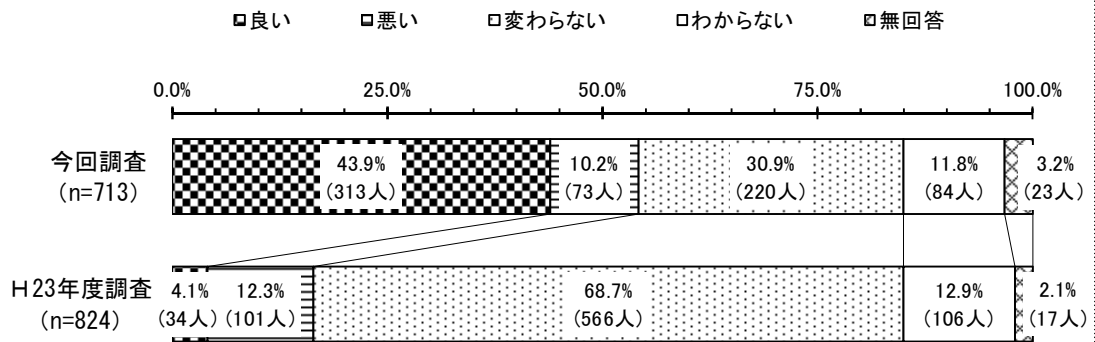
問 21 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地の治安状況が「良い」（43.9％）と思う人は4割台となっている。一方、治安状況が「悪い」（10.2％）と思う人は1割程度となっている。また、「変わらない」（30.9％）が3割台となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「良い」の割合が、大きく上昇している。

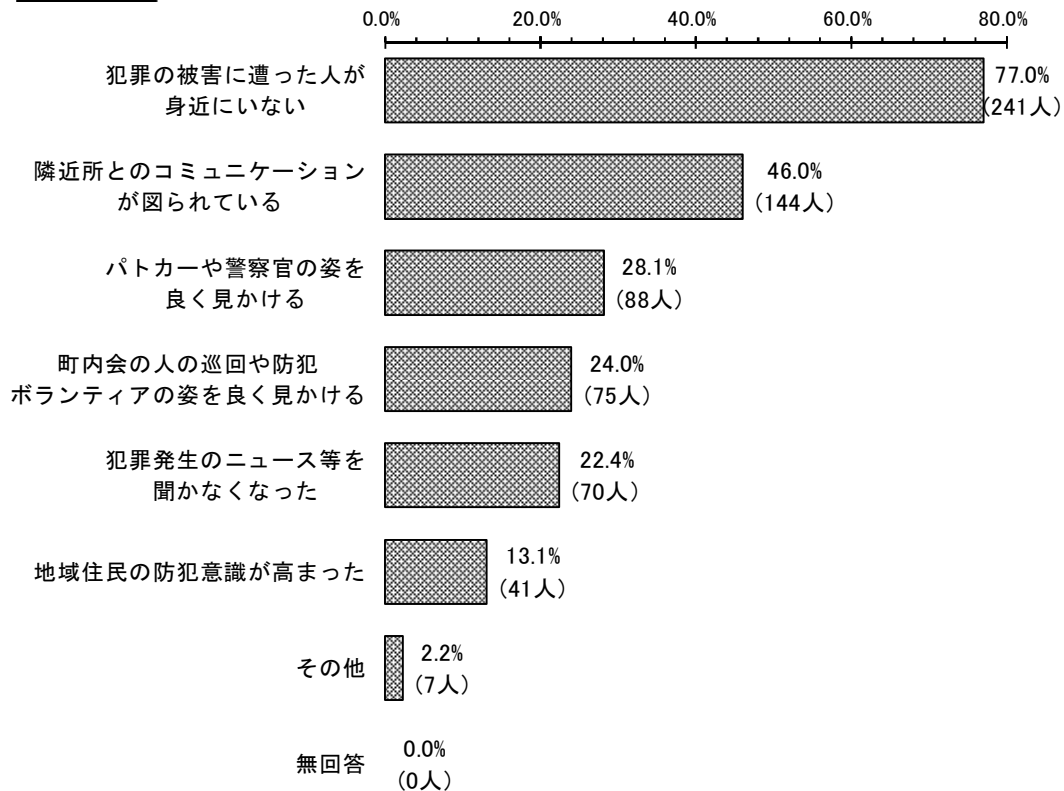
(2) 治安状況が良いと思う理由

(問 21 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 21-1 良いと思う理由は何ですか。

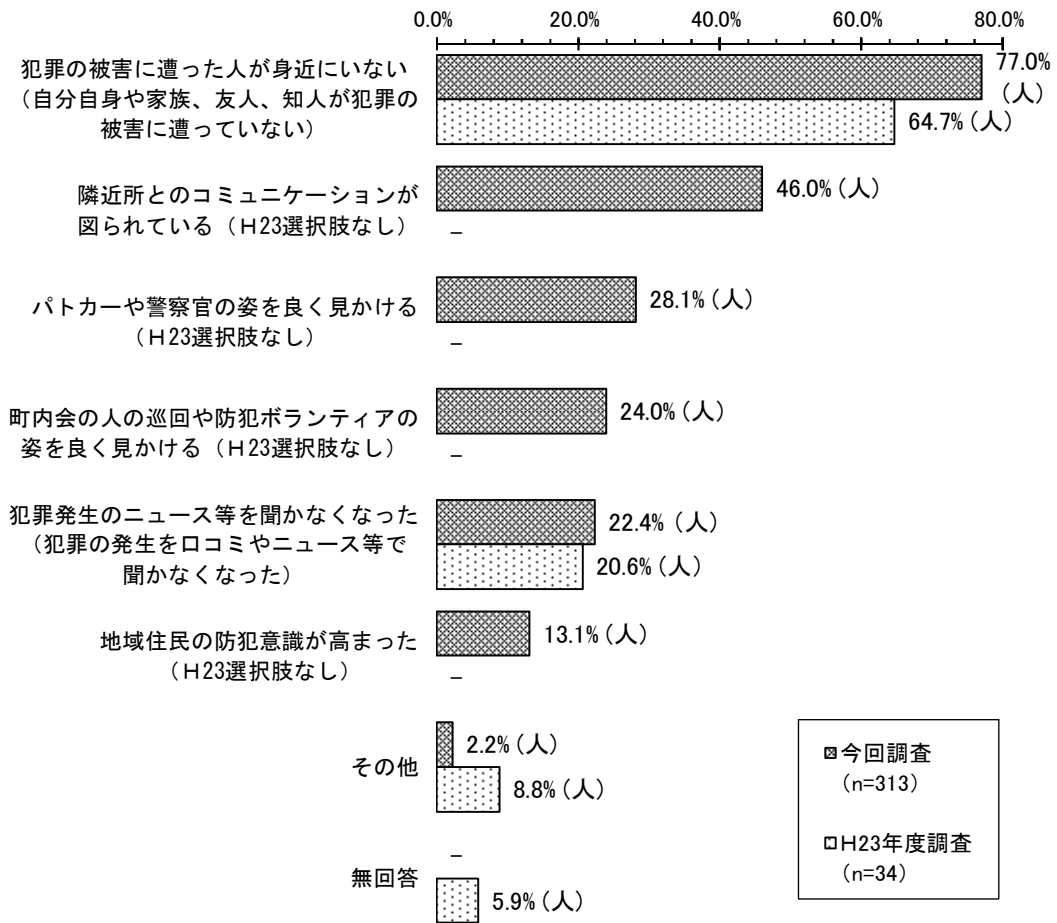
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

該当者全体
(n=313)



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(77.0%)が最も多く、7割台となっている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(46.0%)が4割台、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(28.1%)、「町内会や防犯ボランティアの姿を良く見かける」(24.0%)、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(22.4%)が2割台、「地域住民の防犯意識が高まった」(13.1%)が1割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



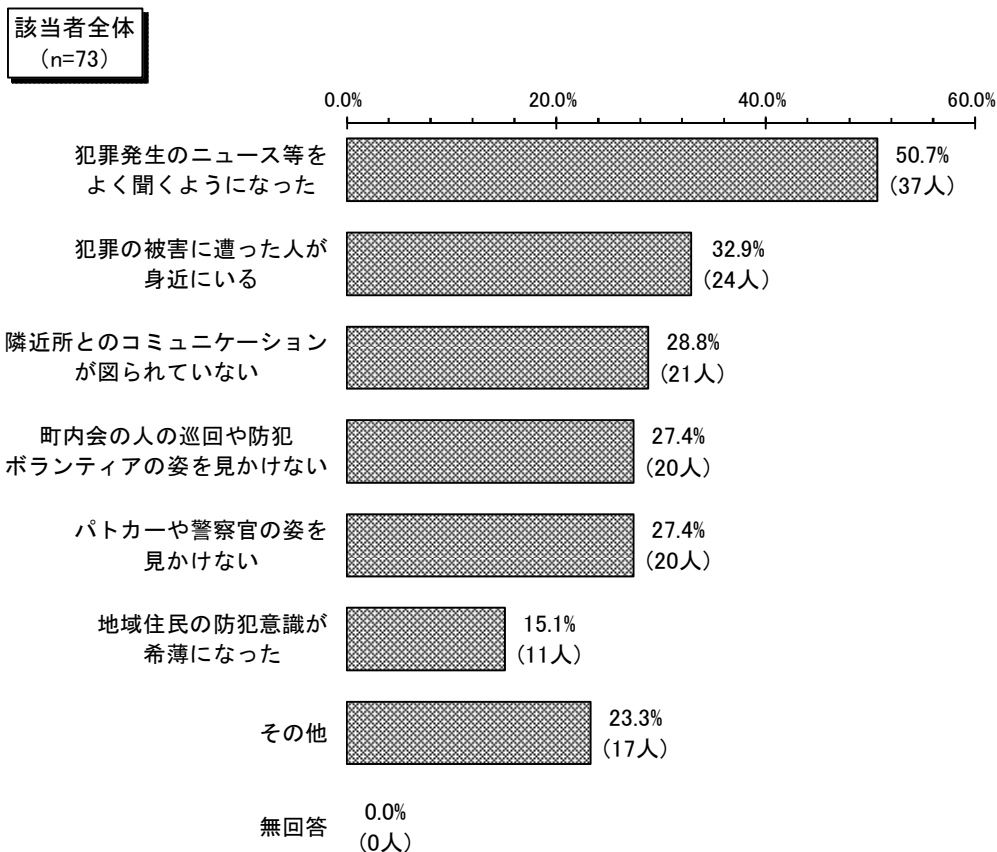
※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留める。

(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 21 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

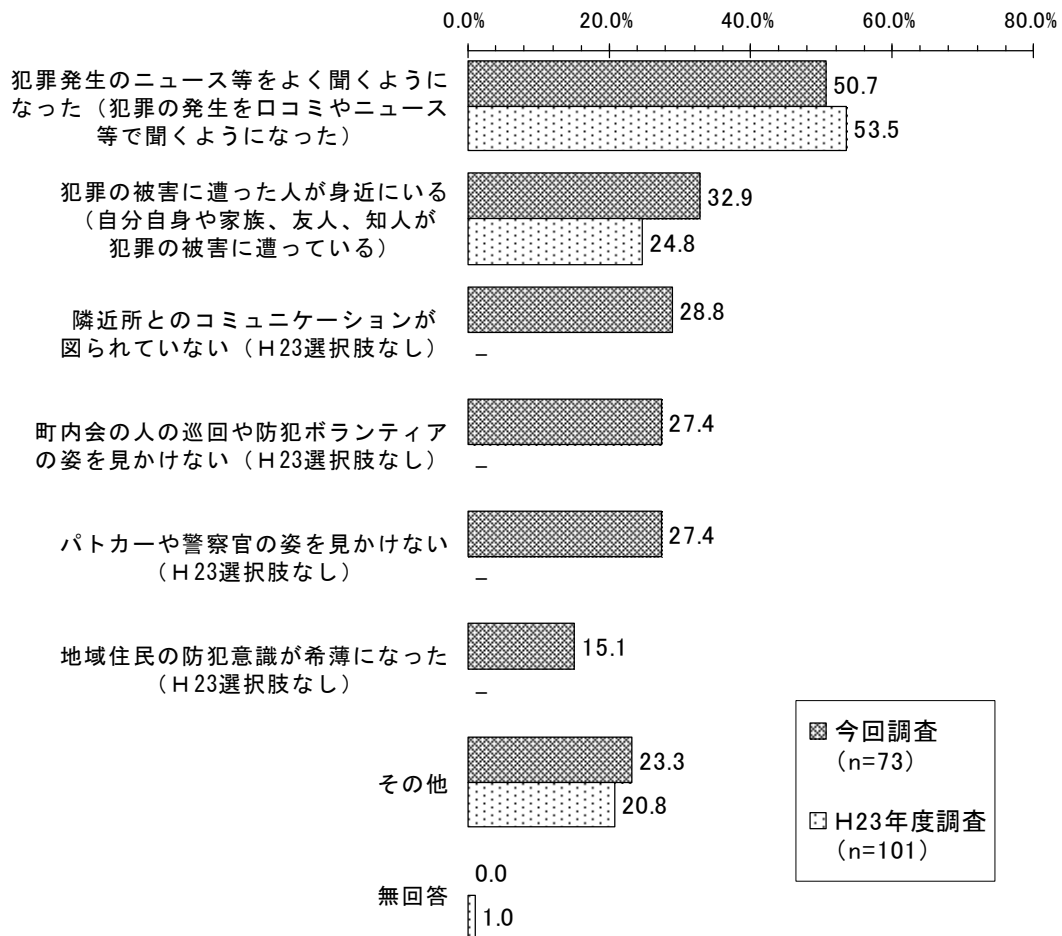
問 21-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



治安状況が悪いと思う理由は、「犯罪発生ニュースをよく聞くようになった」(50.7%)が5割台で最も高くなっている。以下、「犯罪被害に遭った人が身近にいる」(32.9%)が3割台、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(28.8%)と「町内会の人や防犯ボランティアの姿を見かけない」「パトカーや警察官の姿を見かけない」(いずれも27.4%)が2割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

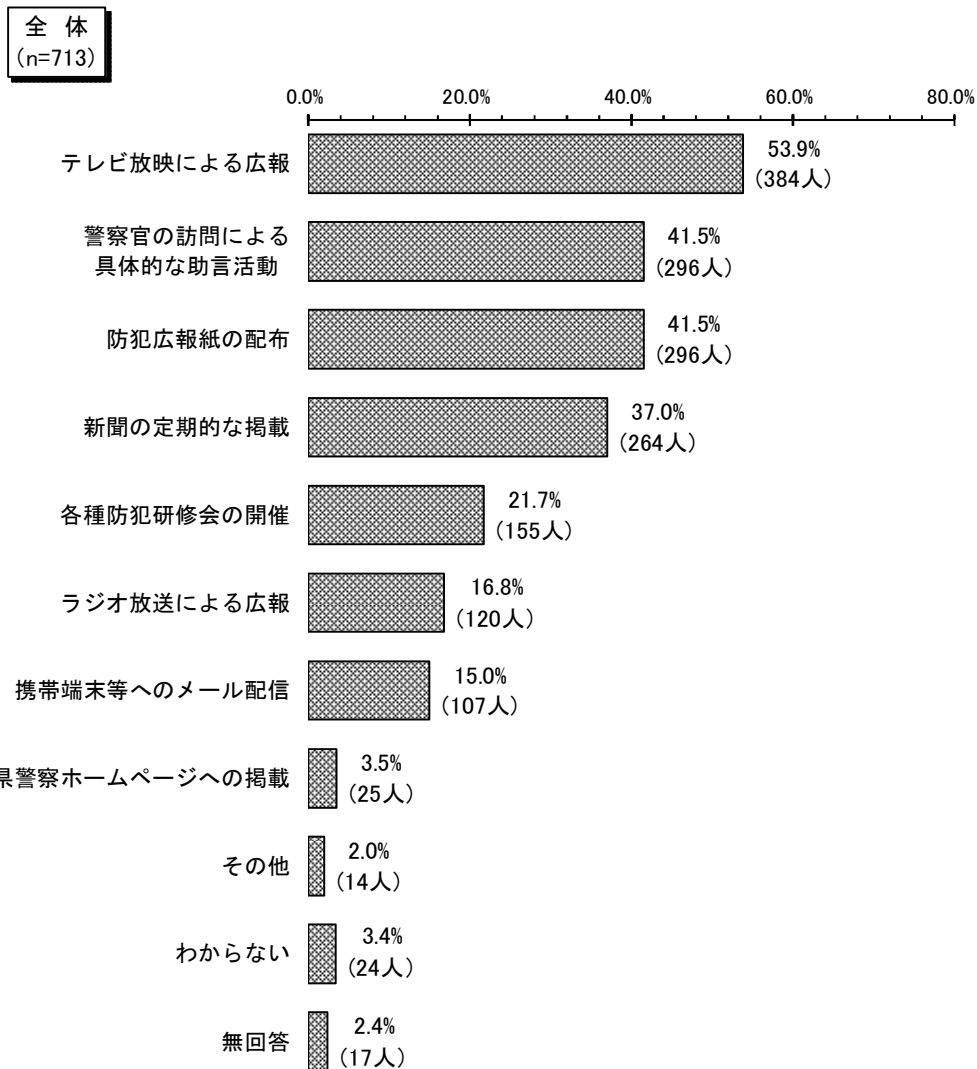


※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留める。

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

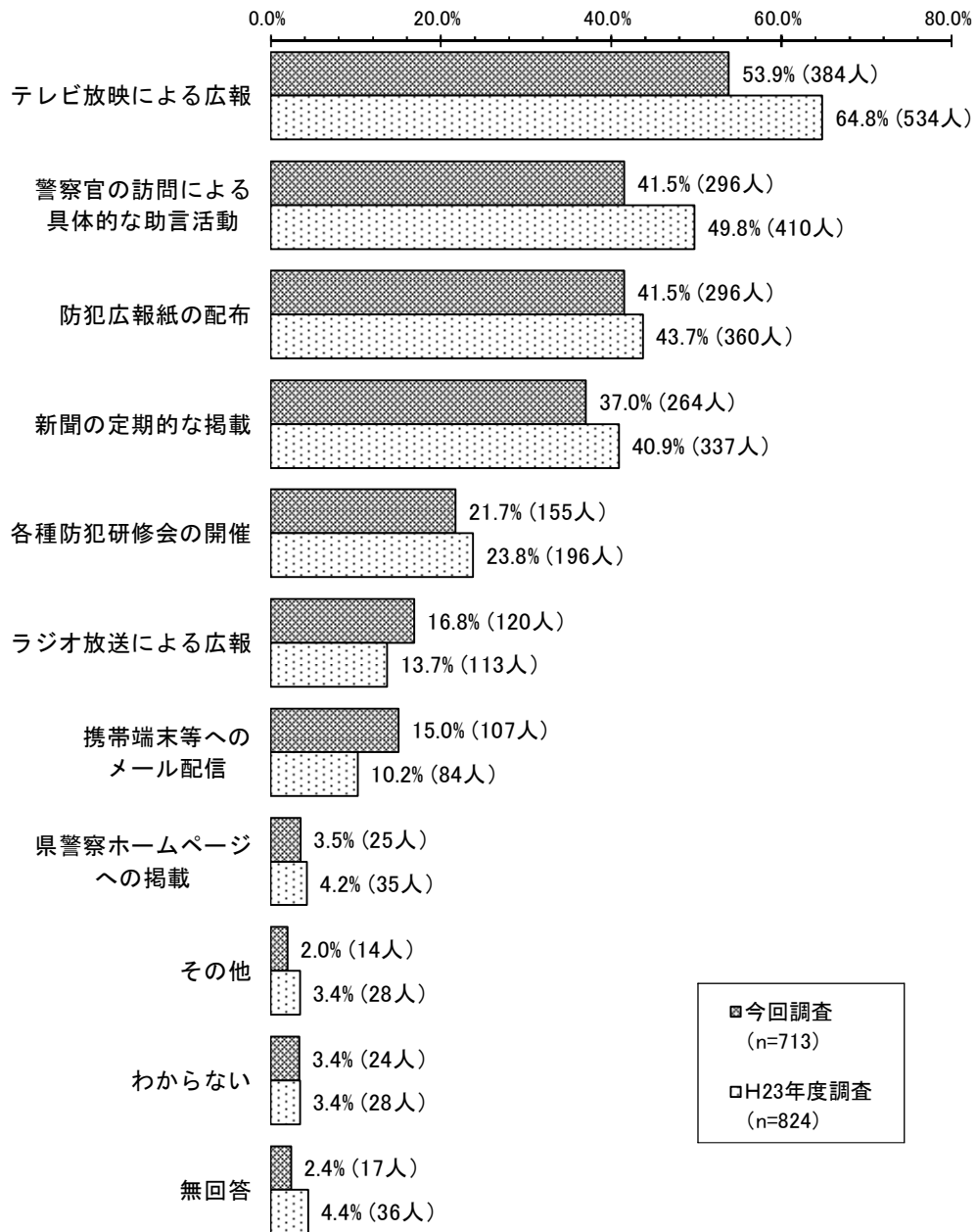
問 22 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(53.9%)が最も多く、5割を超えた。以下、「警察官の訪問による具体的な助言活動」と「防犯広報紙の配布」(いずれも41.5%)が4割台、「新聞の定期的な掲載」(37.0%)が3割台、「各種防犯研修会の開催」(21.7%)が2割台、「ラジオ放送による広報」(16.8%)、「携帯端末等へのメール配信」(15.0%)が1割台で続いている。

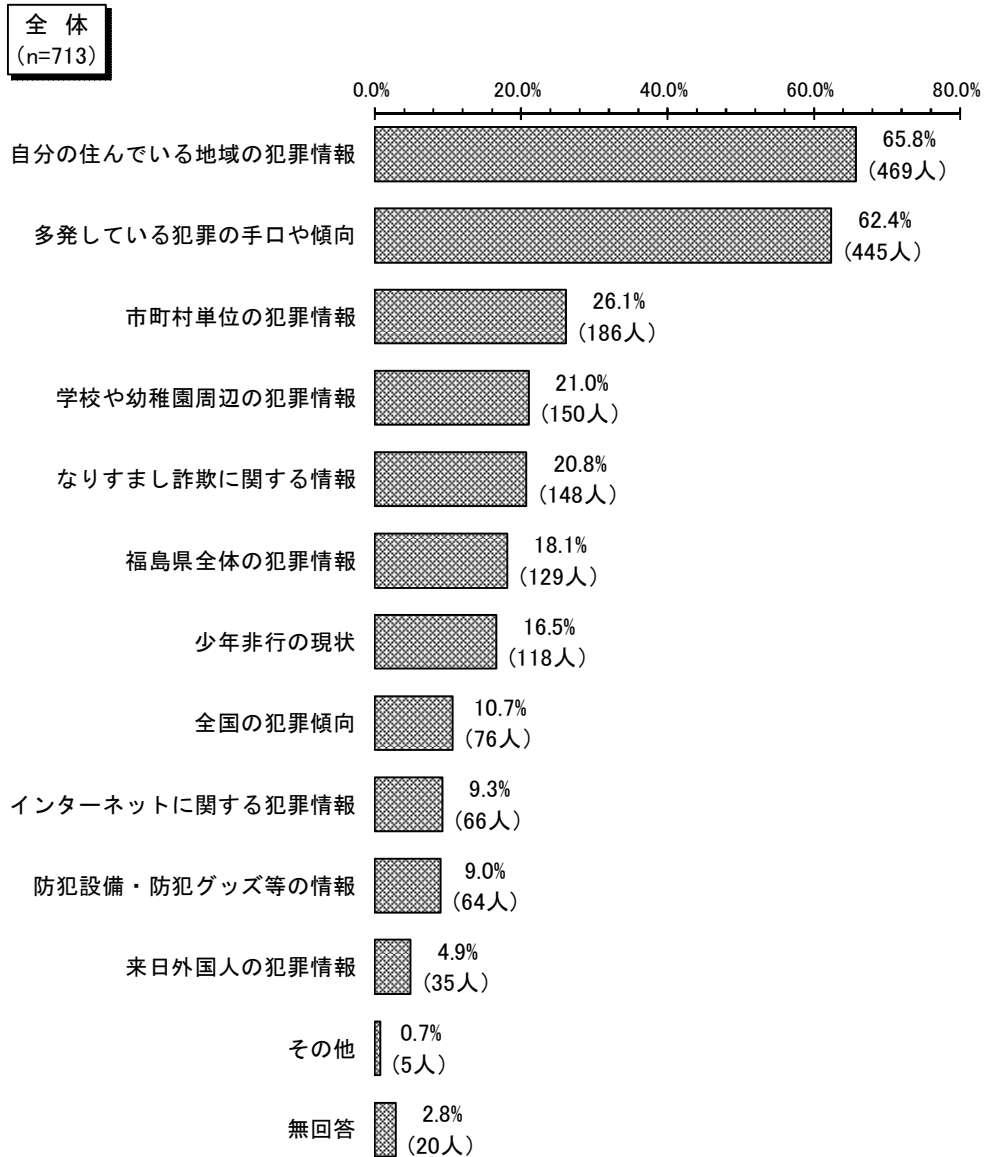
【参考 平成 23 年度調査との比較】



今回調査、平成 23 年度調査ともに回答数の多い順位は同じであるが、ほとんどの項目で平成 23 年度調査よりも割合が低下している。

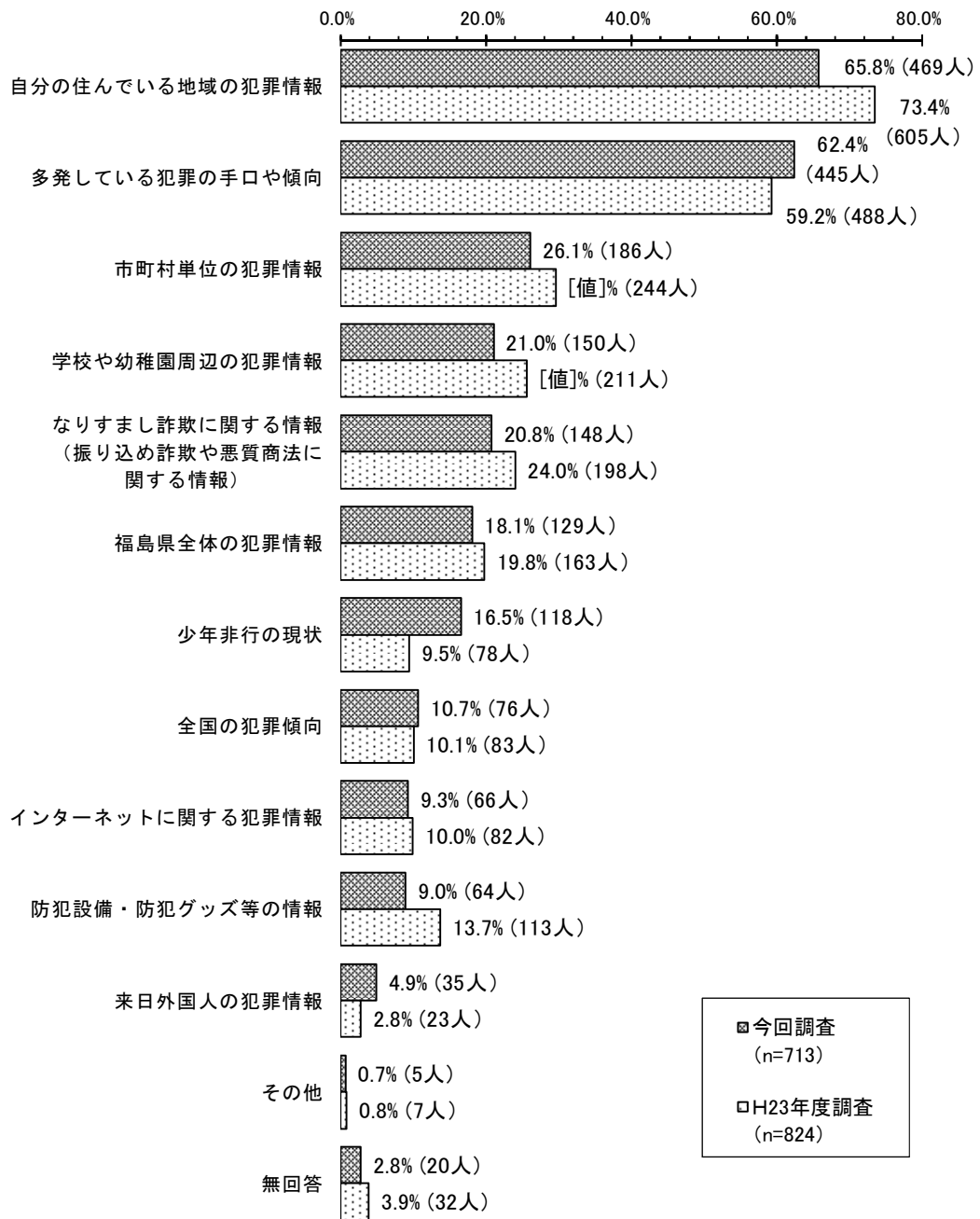
(5) 犯罪に関して知りたい情報

問 23 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。
 あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(65.8%)が最も多く6割台となっている。次いであまり差がなく、「多発している犯罪の手口や傾向」(62.4%)も6割台で続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(26.1%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(21.0%)、「なりすまし詐欺に関する情報」(20.8%)、「福島県全体の犯罪情報」(18.1%)の順となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

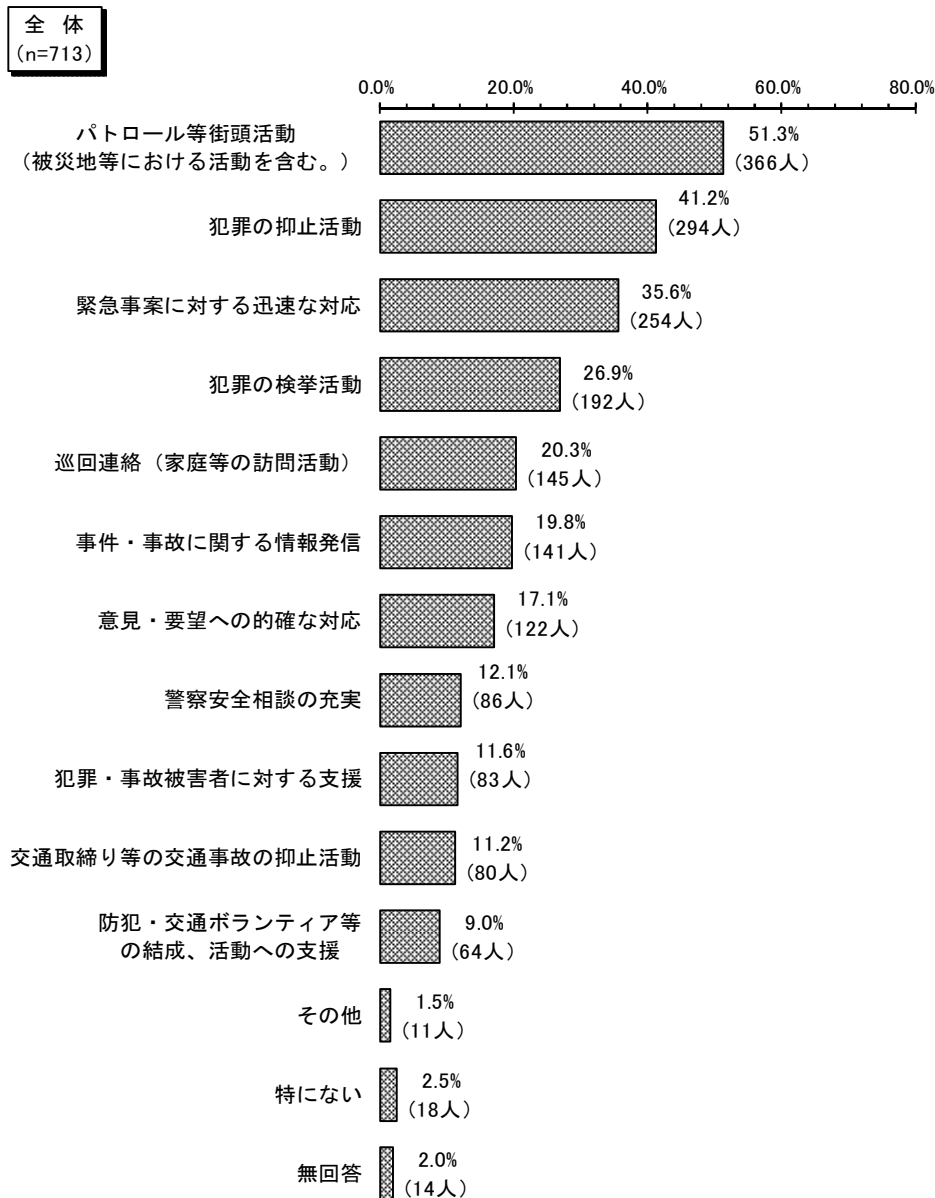


今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「多発している犯罪の手口や傾向」の割合が上昇し、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」の割合が低下している。

(6) 警察に強化してほしい活動

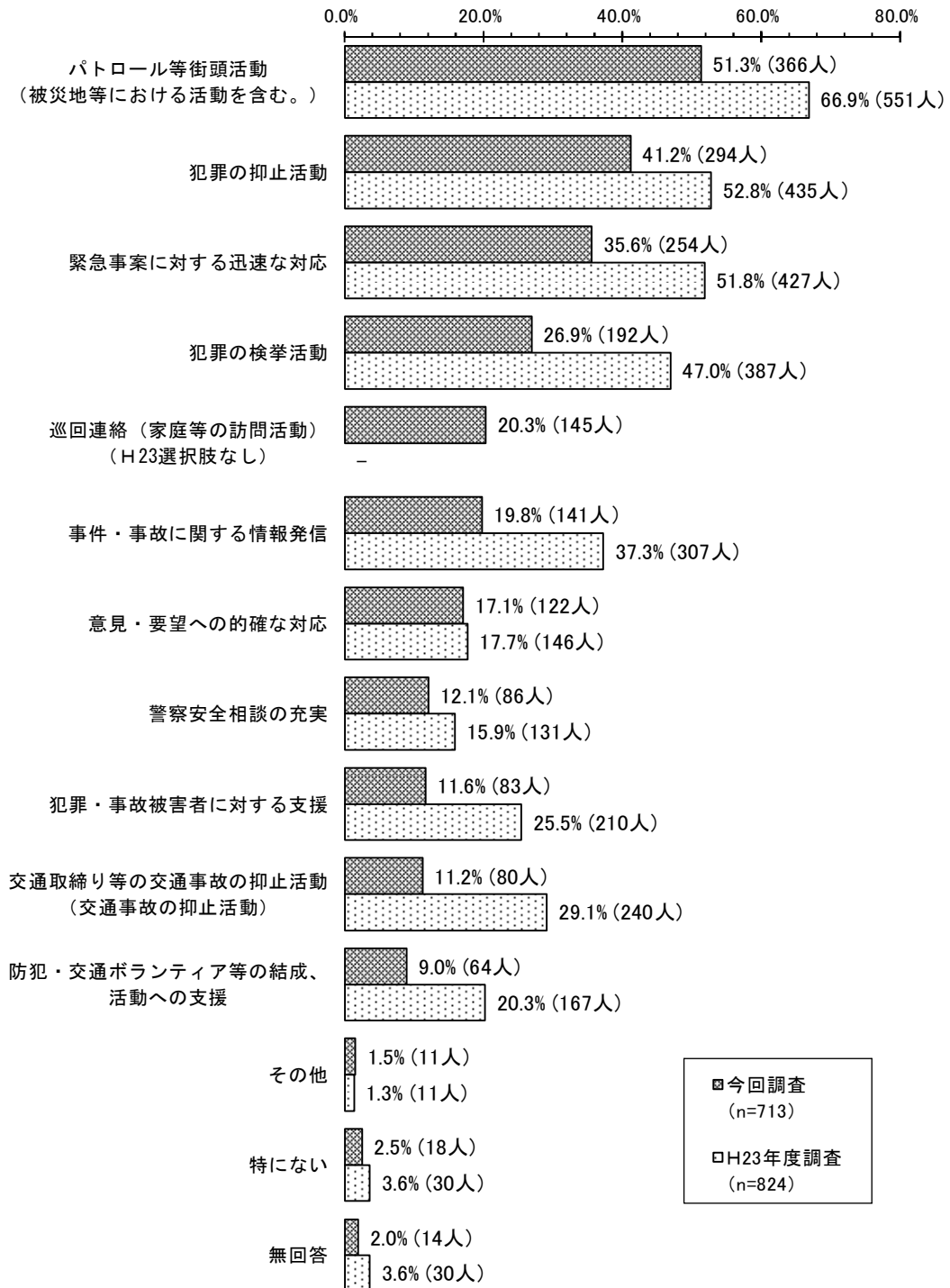
問 24 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動 (被災地等における活動を含む。)」(51.3%) が最も多くなっている。以下、「犯罪の抑止活動」(41.2%) が4割台で続き、「緊急事案に対する迅速な対応」(35.6%) が3割台、「犯罪の検挙活動」(26.9%)、「巡回連絡 (家庭等の訪問活動)」(20.3%) が2割台、「事件・事故に関する情報発信」(19.8%)、「意見・要望への的確な対応」(17.1%)、「警察安全相談の充実」(12.1%)、「犯罪・事故被害者に対する支援」(11.6%)、「交通取締り等の交通事故の抑止活動」(11.2%) が1割台となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

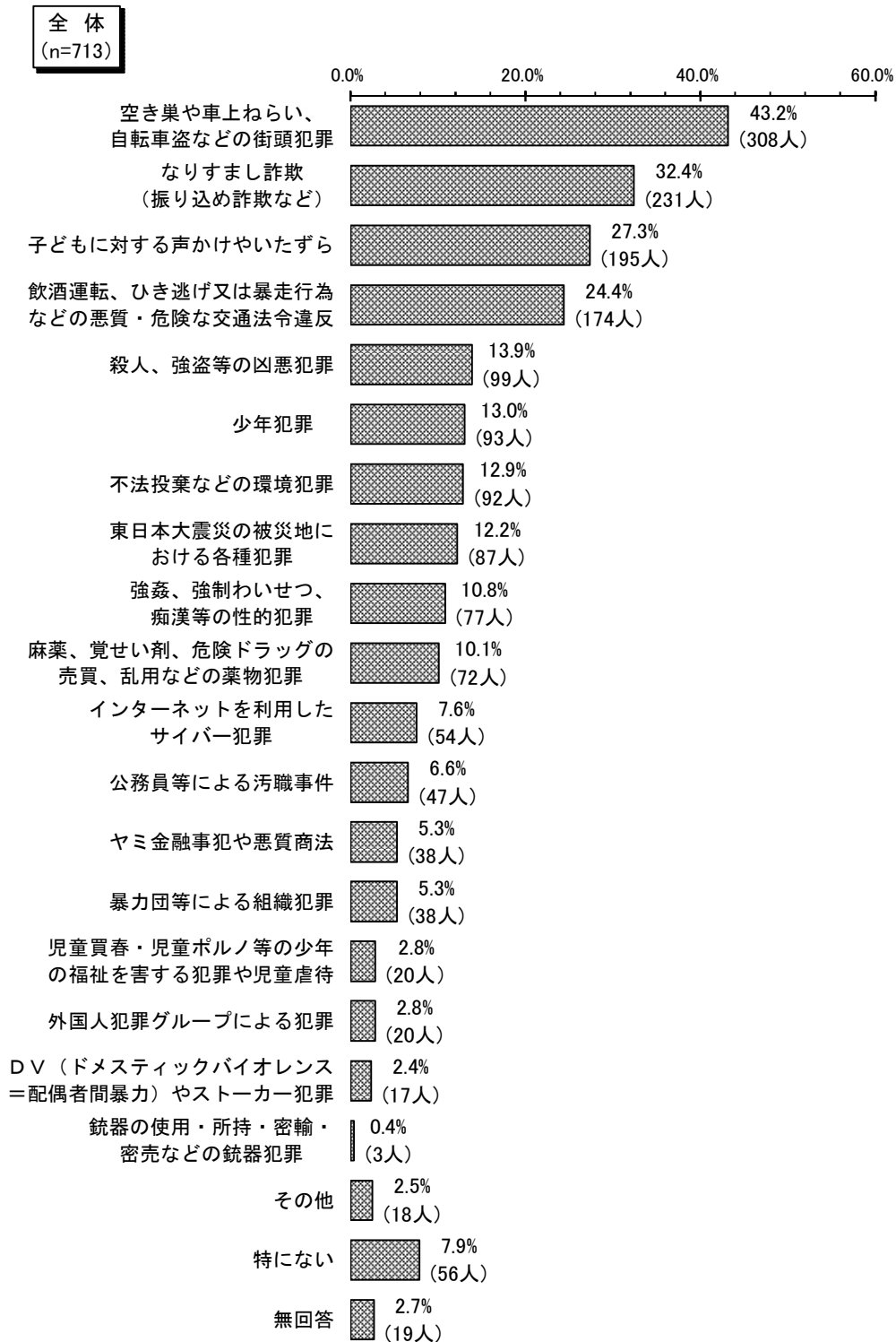


※今回の調査は3つまでの複数回答、平成23年度は制限無しの複数回答のため、図のみの掲載に留める。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

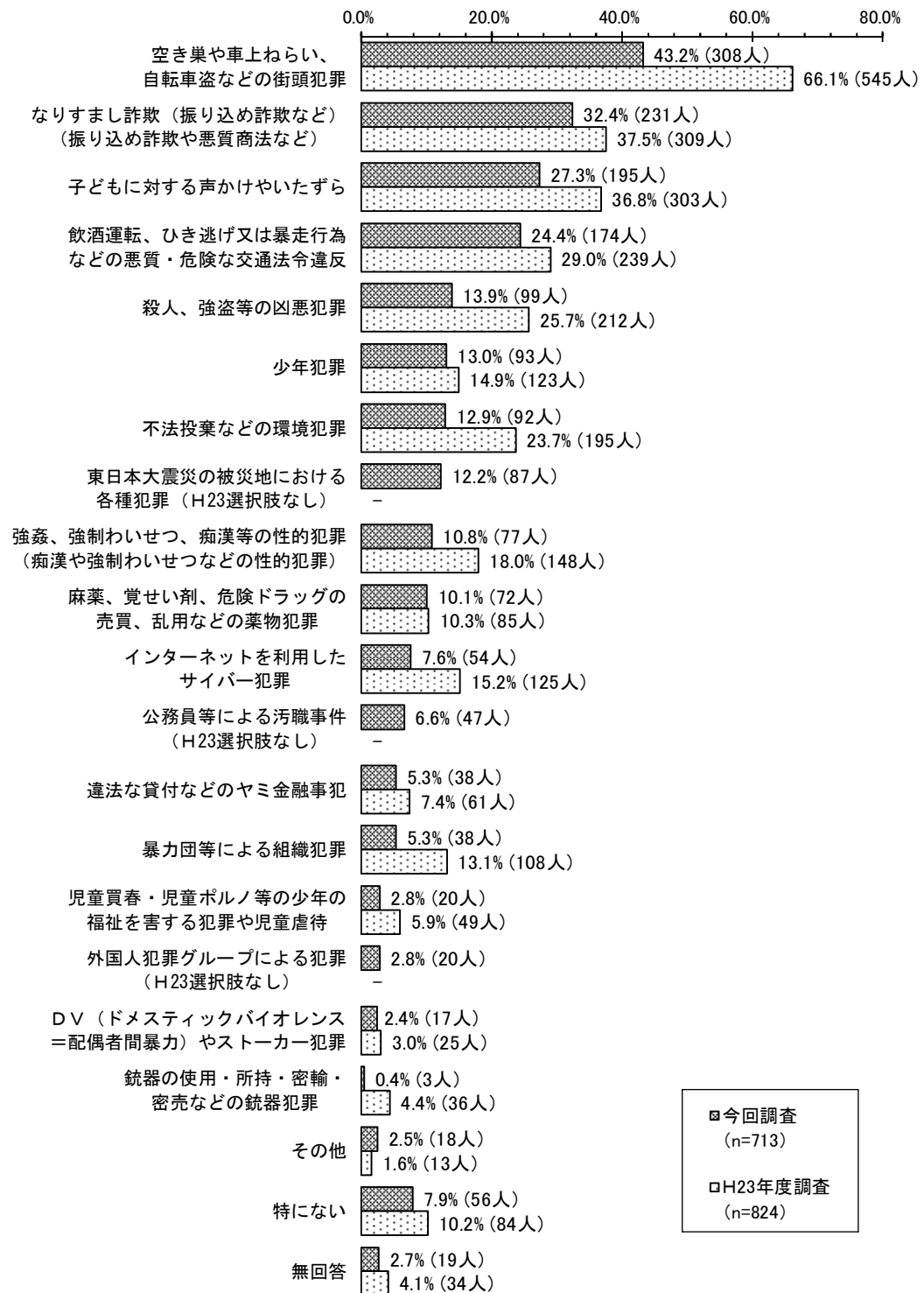
問 25 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



今後重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(43.2%)が4割台で最も多くなっている。以下、「なりすまし詐欺(振り込め詐欺など)」(32.4%)、「子どもに対する声かけやいたずら」(27.3%)、「飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反」(24.4%)、「殺人、強盗等の凶悪犯罪」(13.9%)、「少年犯罪」(13.0%)、「不法投棄などの環境犯罪」(12.9%)、「東日本大震災の被災地における各種犯罪」(12.2%)が続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



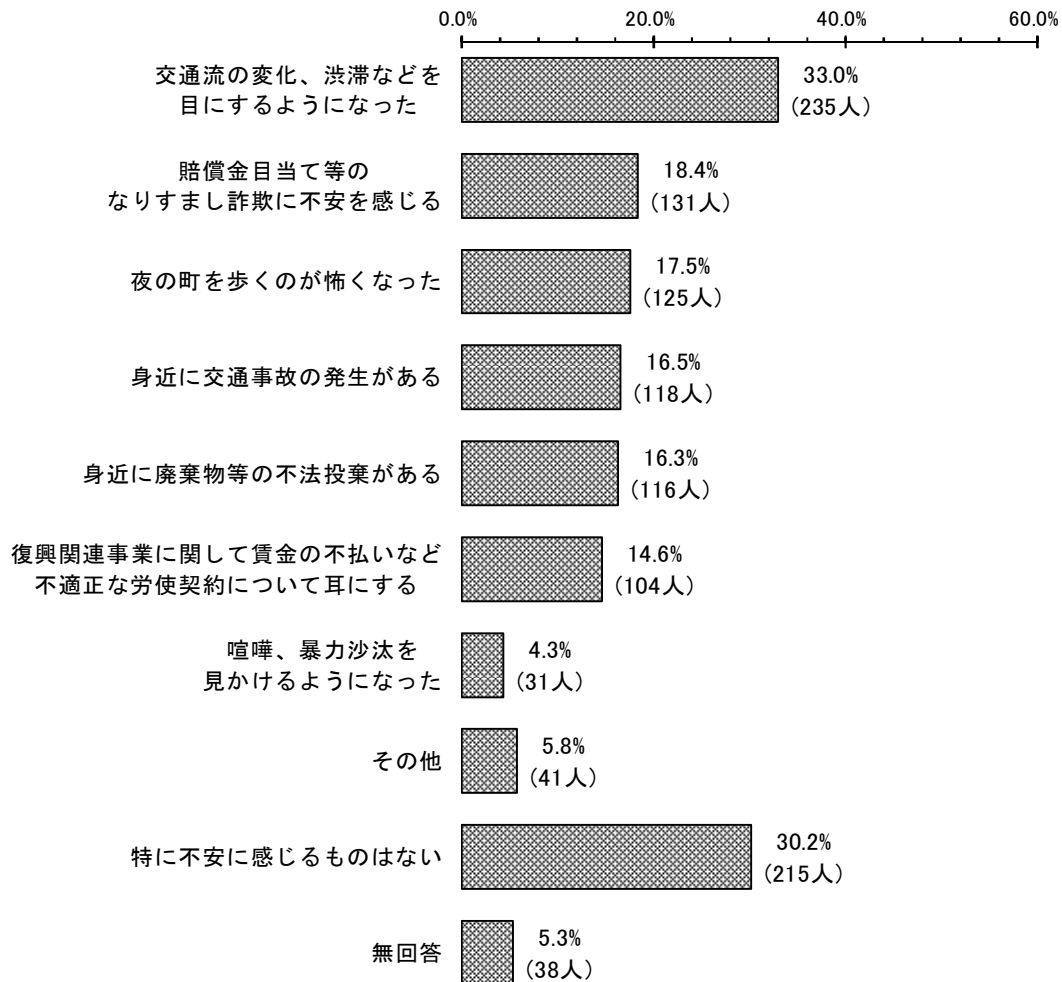
※今回調査（重点的に取り締まってほしい犯罪）と平成 23 年度調査（最も不安に感じる犯罪）では設問が異なるため、図のみの掲載に留める。

(8) 身近に感じる不安

問 26 震災から4年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=713)



復興に伴い治安面で身近に感じる不安は、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(33.0%)が最も多くなっている。以下、「賠償金目当て等のなりすまし詐欺に不安を感じる」(18.4%)、「夜の町を歩くのが怖くなった」(17.5%)、「身近に交通事故の発生がある」(16.5%)、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(16.3%)、「復興関連事業に関して賃金の不払いなど不適正な労使契約について耳にする」(14.6%)が1割台となっている。

7. 安全で安心な県づくりについて

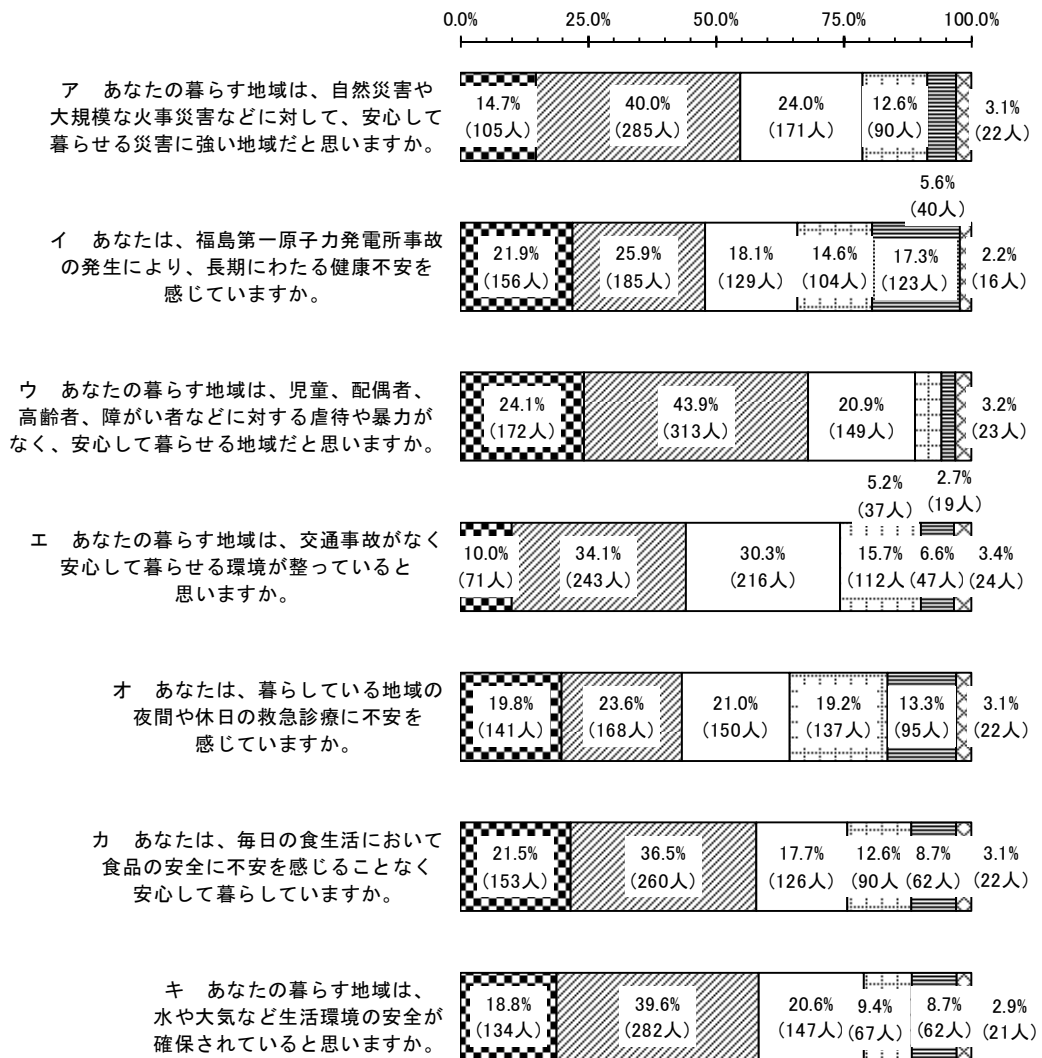
(1) 安全・安心の現状

問27 次にあげた（ア）～（キ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=741)

- はい
 どちらとも言えない・該当しない
 いいえ
 どちらかと言えば「はい」
 どちらかと言えば「いいえ」
 無回答



「はい」と回答した人の割合をみると、〈あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(24.1%)が最も高くなっている。次いで、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(21.9%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(21.5%)が続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(68.0%)が最も高く、7割弱となっている。以下、〈あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(58.4%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(58.0%)が6割弱、〈あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(54.7%)が5割台、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(47.8%)、〈あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(44.1%)、〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(43.4%)が4割台となっている。

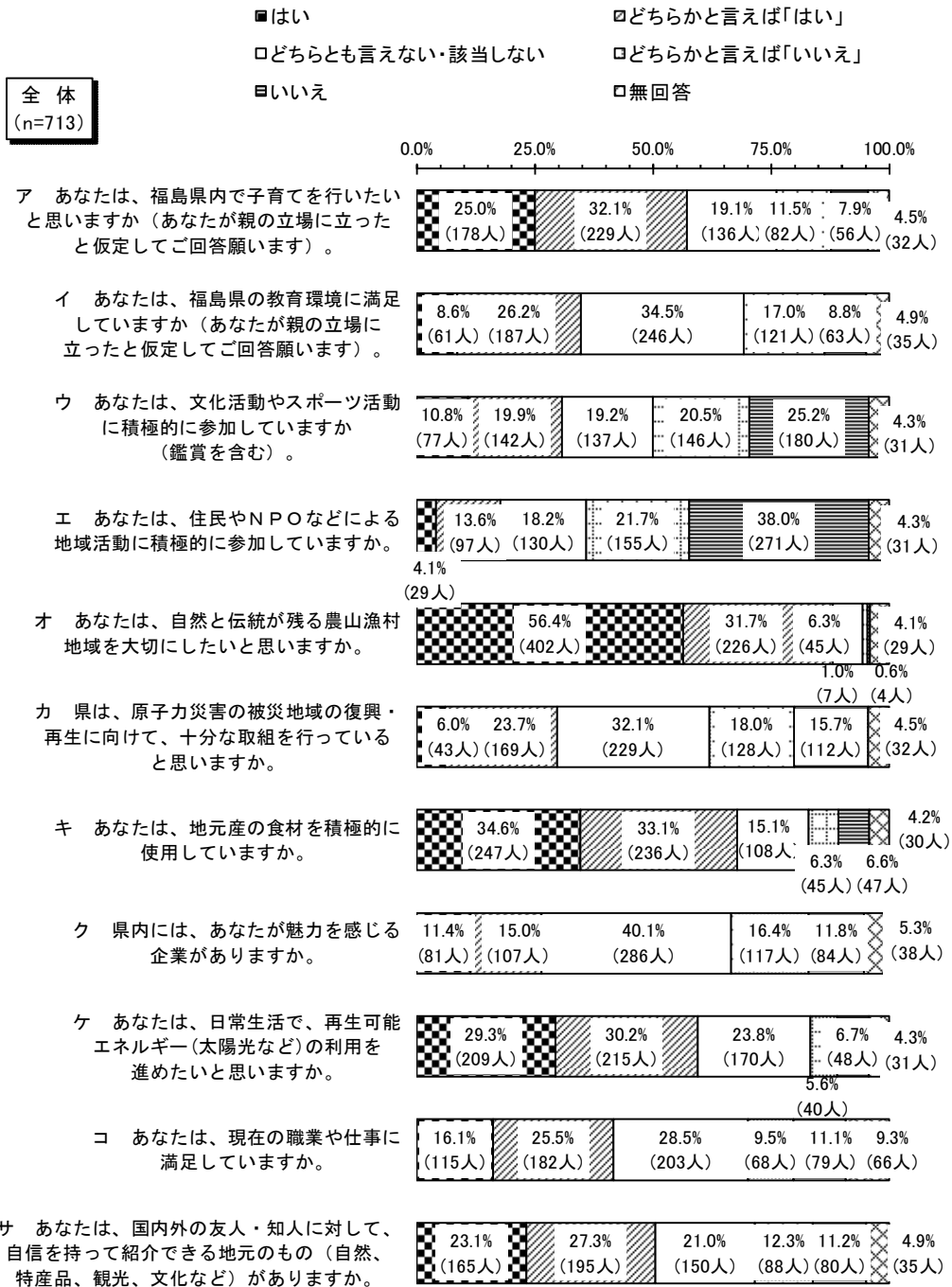
一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(32.5%)が最も高く、3割強となっている。以下、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(31.9%)が3割台、〈あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(22.3%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(21.3%)が2割台となっている。

8. 県総合計画について

(1) 福島県の現状

問 28 次にあげた（ア）～（ニ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

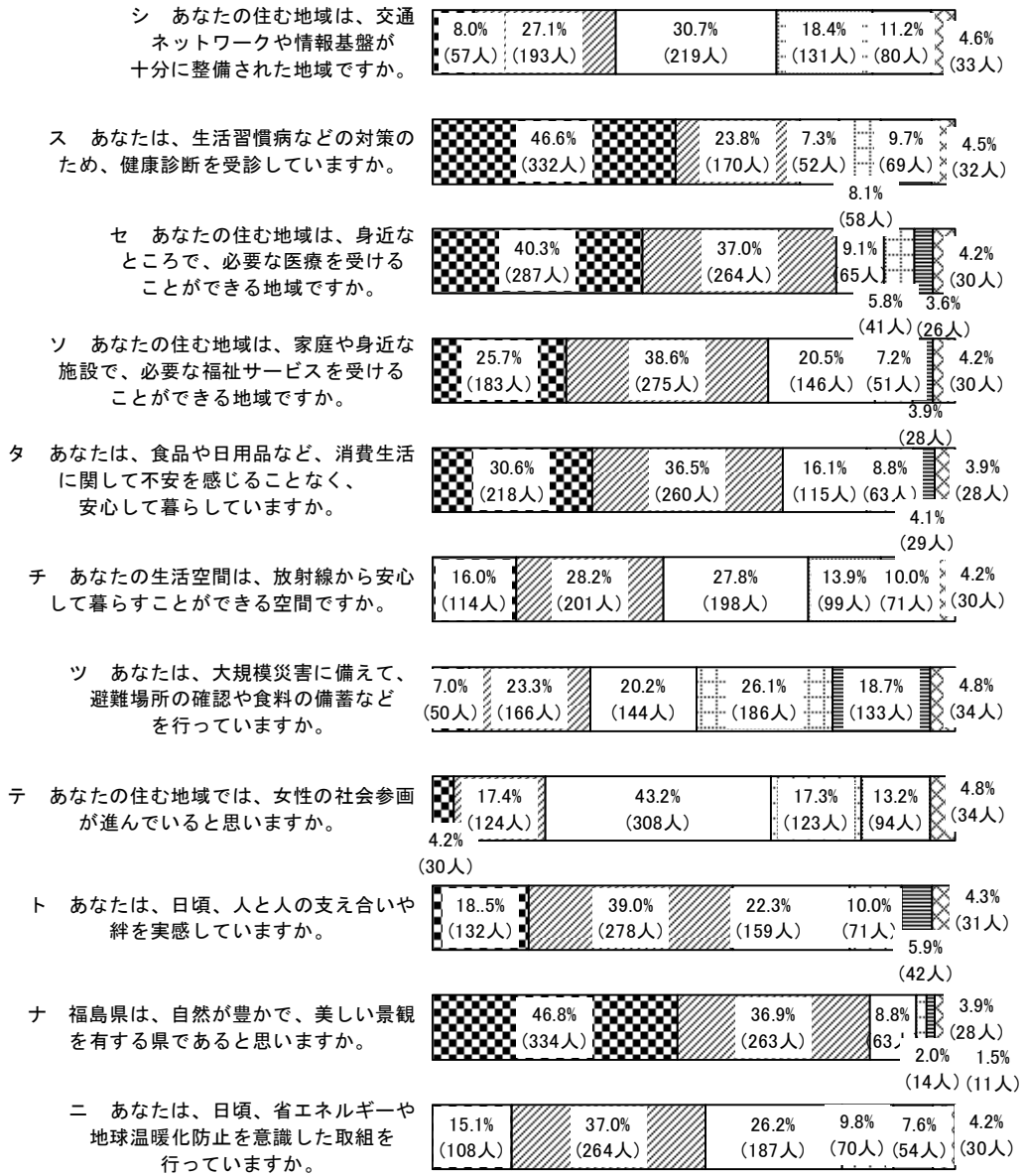
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



全体
(n=713)

- はい
- どちらとも言えない・該当しない
- いいえ
- どちらかと言えば「はい」
- どちらかと言えば「いいえ」
- 無回答

0.0% 25.0% 50.0% 75.0% 100.0%



「はい」と回答した人の割合は、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(56.4%)が最も高く、6割弱となっている。次いで、〈福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(46.8%)と〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(46.6%)が4割台で続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(88.1%)が最も高く、9割弱となっている。以下、〈福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(83.7%)が8割台、〈あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。〉(77.3%)、〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(70.4%)が7割台、〈あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(67.7%)、〈あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(67.1%)、〈あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。〉(64.3%)が6割台、〈あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー(太陽光など)の利用を進めたいと思いますか。〉(59.5%)、〈あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(57.5%)、〈あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いますか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(57.1%)、〈あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。〉(52.1%)、〈あなたには、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(50.4%)が5割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(59.7%)が6割弱で最も高くなっている。以下、〈あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(45.7%)、〈あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(44.8%)が4割台、〈県は、原子力災害の被災地域の復興・再生に向けて、十分な取組を行っていると思いますか。〉(33.7%)、〈あなたの住む地域では、女性の社会参画が進んでいると思いますか。〉(30.5%)が3割台で続いている。

Ⅲ 調査票様式

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

平成26年度（8項目28問） 標本数1,300 回収率57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数1,300 回収率60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数1,300 回収率63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

平成 27 年度

県政世論調査

結果報告書

<概要版>

福島県 総務部 県民広聴室

〒 960-8670 福島市杉妻町 2 番 16 号

電話 (024) 521-7013